

## 第5章

### 資料



# 感染症発生動向調査事業定点一覧

## 内科定点(59)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
畑医院	鶴見区市場西中町6-23	501-2019
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
いわた内科クリニック	神奈川区二ツ谷町6-3 雷鳴堂ビル2F	317-8166
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあビル1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鵜養医院	南区宮元町3-55	334-8753
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷3-23-33	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11 田口ビル1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンスプラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームストッププラザ十日市場西館101	989-6388
西川内科医院	青葉区あざみ野1-26-10	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
清水内科医院	青葉区青葉台1-28-2	981-7231
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルデセゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイエイビルⅡ 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

#### 小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11 ココファン横浜鶴見1F	506-3657
優美子供クリニック	鶴見区駒岡5-5-12 武田メディカルビルディング4階	576-6226
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトコハマビジネスセンター1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
はたの東神奈川キッズクリニック	神奈川区東神奈川2-42-5 ゴールデン東神奈川ビル201	451-0111
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イーストアークビル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
かめのはしクリニック	中区石川町3-108-1	226-2818
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
ゆいこどもクリニック	南区弘明寺町字前田144-1 水谷ビル2F 203号室	730-4152
中村クリニック	南区井土ヶ谷下町28-16	720-1266

医療機関名	所在地	電話番号
みやじ小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
相原アレルギー科・小児科クリニック	南区高根町3-17 ストーク大通り公園参番館201号	261-0737
小島小児科	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 カミオ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル4F	336-2260
おぎき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
新桜クリニック	保土ヶ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
北原医院	保土ヶ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
はせがわこどもクリニック	旭区笹野台1-1-36 城田ビル1F	360-0755
サンクリニック小児科	旭区柏町127 相鉄南万騎が原第4ビル102	366-6821
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
二俣川こどもクリニック	旭区二俣川2-50-14 コプレ二俣川7F	366-0505
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区下町8-16 1F	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野第2ビル2F	785-1152
かわなこどもクリニック	金沢区瀬戸19-14 金沢八景金井ビル3F	350-6277
横浜南共済病院	金沢区六浦東1-21-1	782-2101
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
あい診療所	港北区鳥山町1018	595-9481
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 メディカルモールプラザ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ナビウス大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアパレス鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山5-29-18	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぽっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
あざがみクリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライムラト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はるの木こどもクリニック	青葉区藤が丘1-14-49 横浜藤が丘Nビル2A	972-0088
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
サウスウッドこどもクリニック	都筑区茅ヶ崎中央6-1 サウスウッド3F	942-7700
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1101-6	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2353
小泉小児科クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 モレ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA102	869-0311
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイエイビルⅡ 1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
ふくだ小児科クリニック	泉区上飯田町938-1 いずみ中央クリニックビル3F	805-1020
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 サニーハイツ三ツ境1F	360-6080
なごみクリニック	瀬谷区二ツ橋町489-45	360-8183
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

## 眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田メディカルビル2F	571-5861
矢島眼科医院	神奈川区片倉5-1-1 ARビル3F	482-1950
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストーベビル秋山1F	260-6726
みやざき眼科クリニック	港南区日限山1-57-40	829-0223
星川眼科クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル3F	336-3883
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-5 二俣川北口第2ビル2F	363-1102
磯子うすい眼科	磯子区森1-9-1 アクロスキューブ磯子3F	751-1122
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ウィンダムビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アピタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
スマイル眼科クリニック	青葉区青葉台1-6-12カンゼームビル4F	988-4912
ニュータウン北眼科	都筑区中川中央1-31-1-4123 モザイクモール港北4F	482-3334
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5 ARKビル3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 相鉄ライフビル2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

#### 性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイスビル3F	584-8233
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
やました泌尿器科・皮フ科クリニック	神奈川区六角橋1-13-1 ビック・ライズビル六角橋1F	439-2022
大石レディースクリニック	神奈川区片倉2-1-21 大石医療ビル1F	481-1101
横浜相鉄ビル皮膚泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮フ科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
由利泌尿器科クリニック	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・デ・ルナ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ヶ谷区帷子町1-30-1 クボタビル2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3 第7パレス桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プララSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
金沢文庫レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31 ヒルズ・カモ1F	545-5251
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
知産婦人科	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖マリアクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24 アビテノール3C	914-6355
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26 ビクトリアセンター南201	948-2567
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
おおご泌尿器科クリニック	栄区小菅ヶ谷1-5-1	410-8015
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクスタイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2F	300-3711

#### 基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

#### 病原体定点(16)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科（小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
横浜市立市民病院（基幹）	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
室橋内科医院（内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
片山こどもクリニック（小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルダ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院（基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科（小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
いとうファミリークリニック（内科）	金沢区谷津町378	783-5769
石井内科医院（内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック（小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科（小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
はやし小児科医院（小児科）	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院（基幹）	青葉区藤が丘1-30	971-1151
内科小児科むかひら医院（内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
はっとり小児科（小児科）	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
ひかりこどもクリニック（小児科）	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

#### 疑似症定点(10)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市東部病院	鶴見区下末吉3-6-1	576-3000
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
けいゆう病院	西区みなとみらい3-7-3	221-8181
横浜市立みなと赤十字病院	中区新山下3-12-1	628-6100
横浜市立大学附属 市民総合医療センター	南区浦舟町4-57	261-5656
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
横浜市立大学附属病院	金沢区福浦3-9	787-2800
横浜労災病院	港北区小机町3211	474-8111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151



# 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛 感第 340 号（局長決裁）

最近改正 令和 3 年 12 月 14 日健健安第 7109 号（局長決裁）

## 第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

## 第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

### 1 全数把握の対象

#### 一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

#### 二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 M E R S コロナウイルスであるものに限る。）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

#### 三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

#### 四類感染症

(20) E 型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22) A 型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回帰熱、(28) キャサナル森林病、(29) Q 熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) B ウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、(56) 野兎病、(57) ライム病、(58) リッサウイルス感染症、(59) リフトバレー熱、(60) 類鼻疽、(61) レジオネラ症、(62) レプトスピラ症、(63) ロッキー山紅斑熱

## 五類感染症（全数）

(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（ポリオを除く。）、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群 (73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

## 新型インフルエンザ等感染症

(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ、(114)新型コロナウイルス感染症、(115)再興型新型コロナウイルス感染症

## 指定感染症

該当なし

## 2 定点把握の対象

### 五類感染症（定点）

(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎、(98)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎、(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症、(105)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(106)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症

### 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(116)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

## 3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

## 二類感染症

### (13)鳥インフルエンザ (H5N1)

## 第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

## 第4 実施体制の整備

### 1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

### 2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 健康福祉局は、定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

(2) 健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下、「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。なお、法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定し、神奈川県へ進達する。

### 3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

### 4 検査施設

横浜市内における本事業に係る検体等の検査については、横浜市衛生研究所の検査施設（以下、「衛生研究所」という。）において、実施する。衛生研究所は、「検査施設における病原体等の検査の業務管理要領」（健感発 1117 第2号平成27年11月27日厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、健康福祉局は、横浜市内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整する。

## 第5 事業の実施

### 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症（第2の（114）及び（115）を除く）、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

#### (1) 調査単位及び実施方法

##### ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

##### イ 検体等を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」（以下、別記様式1という。）の検査票を添付して提供する。

##### ウ 福祉保健センター

- (ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。
- (イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式1を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。
- (ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (エ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1等により速やかに送付する。
- (オ) なお、迅速な対応が必要な疾患については、健康福祉局と協議の上、対応する。

##### エ 健康福祉局

- (ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。
- (ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。
- (エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。
- (オ) 迅速な対応が必要と保健所長が定める疾患については、福祉保健センターが行う

ウ(イ)から(エ)までの対応は、健康福祉局が行う。

- (カ) 健康福祉局は横浜市外に居住する者について、法第 12 条第 1 項の規定による届出を受けたときは、該当届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県等に通報する。
- (キ) 健康福祉局は厚生労働省に対して、法第 12 条第 1 項の規定による届出の一連の事務の中で同条第 2 項の報告を行う場合、または、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の一連の事務の中で、同条第 13 項の報告を行う場合は併せて神奈川県へ報告する。
- (ク) 健康福祉局は横浜市外における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の結果を当該都道府県等へ通報する。
- (ケ) (キ)の法第 12 条の規定による報告について、感染症発生動向調査システムにより相互に情報を閲覧できる措置を講じることで、厚生労働省及び神奈川県へ当該報告をしたものとみなす。

#### オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。届け出た情報について医療機関に確認が必要な場合には健康福祉局または福祉保健センターへ情報提供を行う。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

#### カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式 1 及び検体等が送付された場合にあつては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市内を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

## 2 (114)新型コロナウイルス感染症、(115)再興型新型コロナウイルス感染症

### (1)調査単位及び実施方法

#### ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。当該届出は、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（以下「HER-SYS」という。）への入力を基本とする。入力環境がない場合には所定の様式に記入して最寄りの福祉保健センターへ提出する。

#### イ 検体を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」（以下、別記様式1という。）の検査票を添付して提供する。

#### ウ 福祉保健センター

(ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

(イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式1を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。

(ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。

(エ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1等により速やかに送付する。

(オ) なお、迅速な対応が必要な場合は、健康福祉局と協議の上、対応する。

#### エ 健康福祉局

(ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。

(イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

(ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

(エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

(オ) 迅速な対応が必要と保健所長が判断した場合は、福祉保健センターが行うウ(イ)から(エ)までの対応は、健康福祉局が行う。

(カ) 健康福祉局は横浜市外に居住する者について、法第12条第1項の規定による届出を受けたときは、該当届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県等に通報する。

(キ) 健康福祉局は厚生労働省に対して、法第12条第1項の規定による届出の一連の事務

の中で同条第 2 項の報告を行う場合、または、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の一連の事務の中で、同条第 13 項の報告を行う場合は併せて神奈川県へ報告する。

(ク) 健康福祉局は横浜市外における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の結果を当該都道府県等へ通報する。

(ケ) (カ)から(ク)の法第 12 条の規定による報告について、HER-SYS により相互に情報を閲覧できる措置を講じることで、厚生労働省及び神奈川県へ当該報告をしたものとみなす。

#### オ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容を HER-SYS に入力する。また、診断した医師が届け出た情報を確認する。届け出た情報について医療機関に確認が必要な場合には健康福祉局または福祉保健センターへ情報提供を行う。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。ただし、健康福祉局及び福祉保健センターで記者発表を行う場合には、その内容をもって関係機関に提供・公開したものとする。

#### カ 衛生研究所

(ア) 衛生研究所は、別記様式 1 及び検体等が送付された場合にあつては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。

(イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(ウ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があつた場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

#### キ 病原体検査を行政検査として委託されている医療機関

病原体検査を行政検査として委託されている医療機関は、健康安全課等に必要な情報共有を行うこと。

### 3 定点把握対象の五類感染症

#### (1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

#### (2) 定点の選定

##### ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、行政区人口を保健所管内人口とみなして国要綱に定めるとおりとする。

#### イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、医師会等の協力を得て原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、保健所管内人口について国要綱に定めるとおりとする。

### (3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

### (4) 実施方法

#### ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

#### イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。

(イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式2「病原体定点からの検査依頼書」(以下、「別記様式2」という。)を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

(ウ) (2)のイにより選定された小児科病原体定点においては、第2の(88)から(97)について、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類を送付する。

(エ) (2)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第2の(98)に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を採取し、衛生研究所と協議のもと、健康福祉局の定める単位ごとに送付するものとする。

#### ウ 検体等を所持している医療機関等



保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合に当たっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式1を添付して提供する。

#### エ 福祉保健センター

- (ア) 福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付し、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。また、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。
- (イ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1により速やかに送付する。

#### オ 健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

#### カ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、届出情報の確認を行い、感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

#### キ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式2及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式2により病原体定点に通知するとともに、健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 衛生研究所は、エ(イ)により別記様式1及び検体等が送付された場合にあっては、

病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して、診断した医師に通知するとともに、別記様式1により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

- (ウ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

#### 4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

##### (1) 対象とする疑似症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

##### (2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から疑似症定点を選定する。

##### (3) 実施方法

###### ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として汎用サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

###### イ 健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

###### ウ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において汎用サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、汎用サーベイランスシステムに入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局および中央感染症情報センターへ報告する。

- (イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

## 5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

### (1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体等が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体等を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

### (2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体等が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

### (3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検査依頼票及び検体等が送付された場合にあっては、当該検体等を別に定める病原体検査要領に基づき検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあっては、法施行規則第9条第2項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。検体等を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

## 第6 その他

- 1 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等について、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。
- 2 本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な

か所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 の 1 の対象感染症に係る改正については、平成 28 年 2 月 15 日から適用する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票は、当面の間、必要なか所を訂正した上、引き続き

これを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 7 月 21 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

#### 別記様式一覧表

別記様式 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票

別記様式 2 病原体定点からの検査依頼書（3 枚複写式）

(医療機関控)

(衛生研究所控)

(医療機関あて検査結果通知用)

# 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 23 年 5 月 24 日 健健安第 304 号（局長決裁）

## （設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## （所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

## （組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以上 10 人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

## （委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

## （委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

## （招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

## （議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。



# 令和4年1月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第1週から急増し、第3週の報告数は7,491件と最多です。
- 無症状のE型肝炎の報告が増えています。
- 梅毒の報告が19件で、高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈1月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	15件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	梅毒	19件
アメーバ赤痢	1件	播種性クリプトコックス症	1件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	-	-

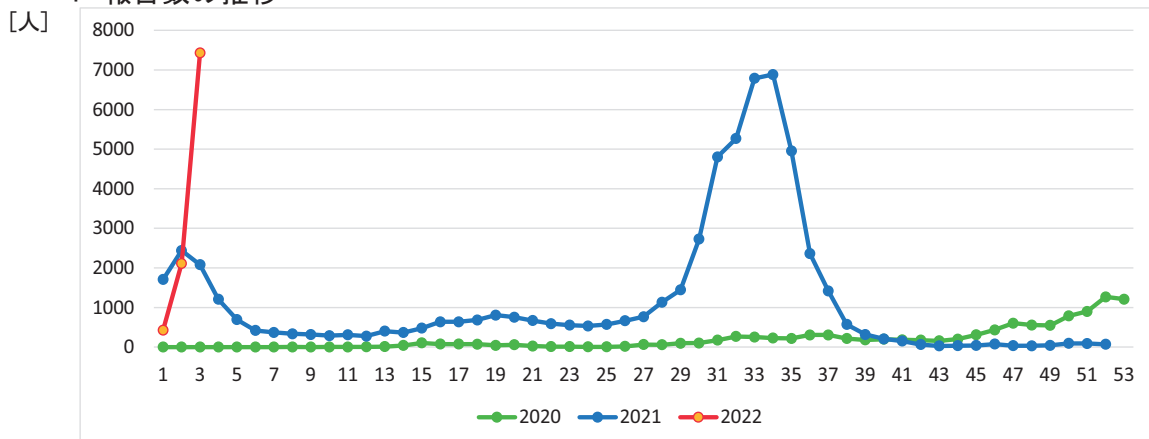
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O26が1件、O不明1件(無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 15件(うち無症状病原体保有者14件)の報告がありました。1件は感染経路等不明です。他14件は集団発生を疑い、現在原因調査中です。
- 3 デング熱: インドネシアでの感染が推定される1件の報告がありました。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 6 ウイルス性肝炎: B型肝炎の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS3件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。すべて男性で、うち5件が性的接触(同性間4件、異性間1件)による感染が推定されています。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 40歳代1件、70歳代1件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 11 梅毒: 男性16件女性3件、早期顕症梅毒Ⅰ期10件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者1件、晩期顕症梅毒1件で、うち18件は性的接触(異性間14件、同性間2件、詳細不明2件)による感染が推定されています。
- 12 播種性クリプトコックス症: 70歳代の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 13 百日咳: 20歳代1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

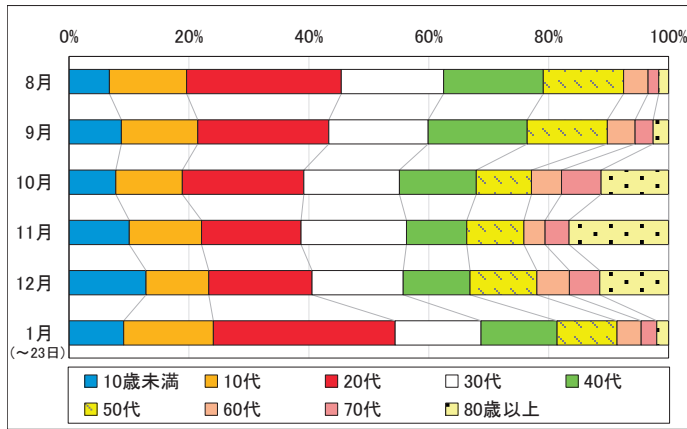
第51週～第3週に横浜市から報道発表のありました症例は10,188件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

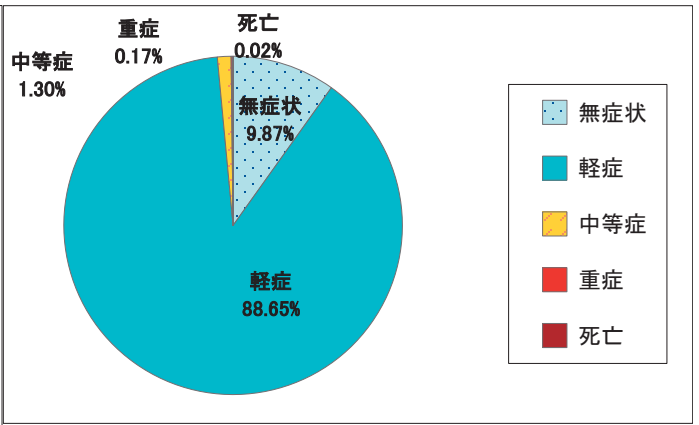
#### 1 報告数の推移



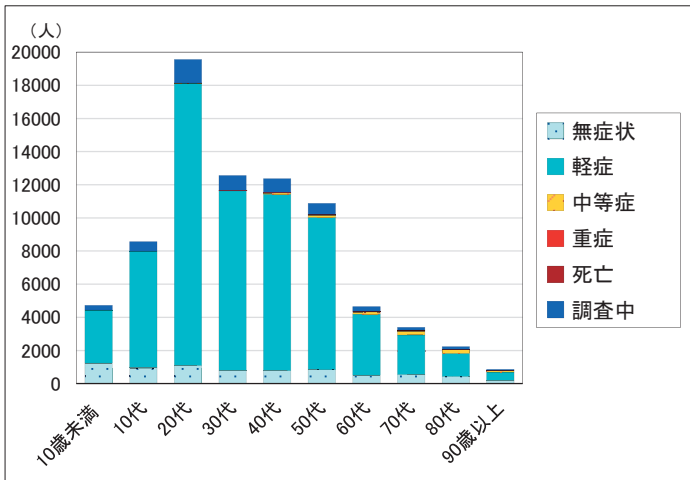
## 2 年齢別割合



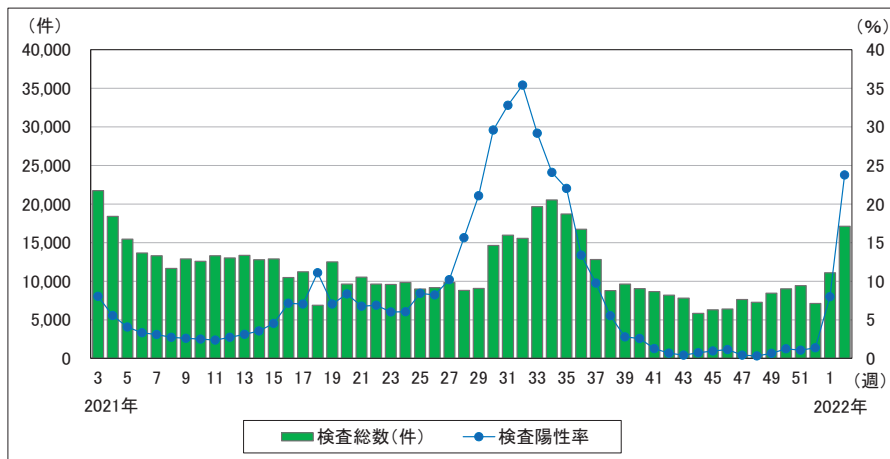
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022年第3週まで)



## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2022年第3週まで)

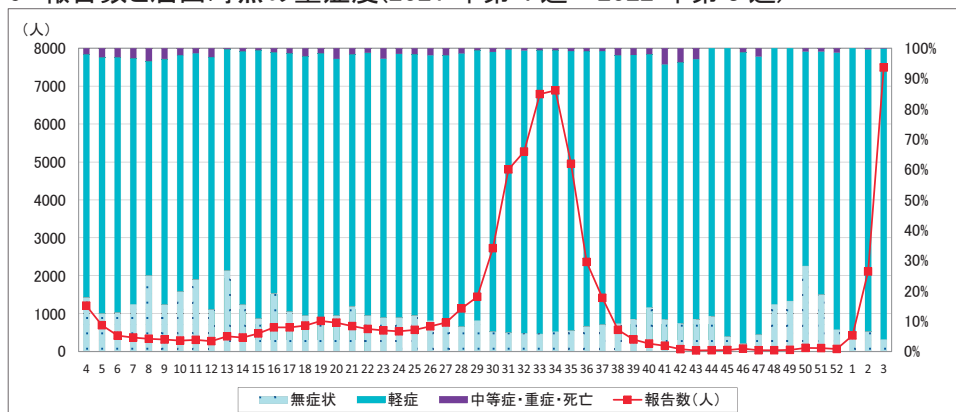


## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2021年第3週~2022年第2週)



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

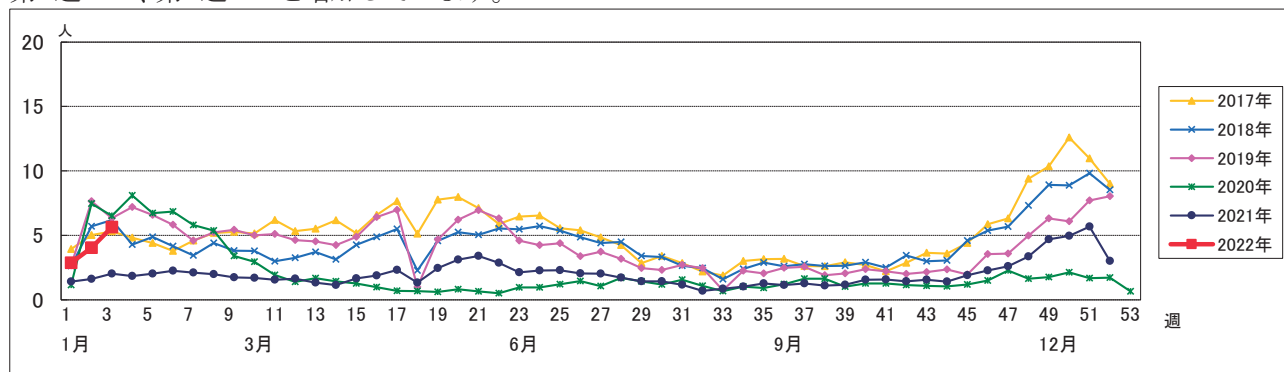
## 6 報告数と届出時点の重症度(2021年第4週~2022年第3週)



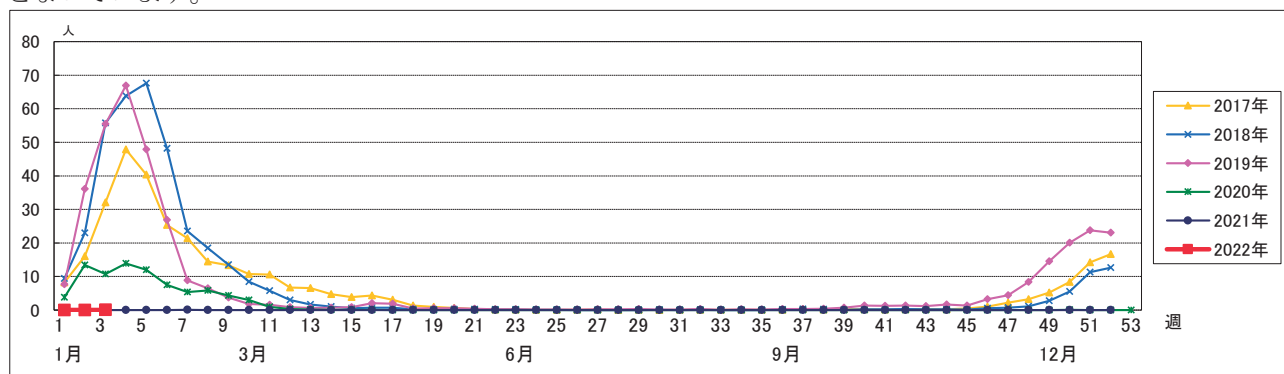
報告週対応表	
第51週	12月20日～12月26日
第52週	12月27日～1月2日
第1週	1月3日～1月9日
第2週	1月10日～1月16日
第3週	1月17日～1月23日

## ◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 昨年より高めの報告数で推移していて、第1週2.87、第2週4.03、第3週5.63と増加しています。



2 インフルエンザ: 昨年と同様に、例年より低めの報告数で推移しています。第2週0.01、第3週0.03となっています。



## 3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:29件	女性:13件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:5件
尖圭コンジローマ	男性:8件	女性:1件	淋菌感染症	男性:18件	女性:5件

## 4 基幹定点週報

	第51週	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.33	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

# 令和4年2月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第1週以降急増し、第6週の報告数は21,068件と最多です。
- 梅毒の報告が6件で、高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈2月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	6件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O血清群不明1件(無症状病原体保有者)の報告がありました。感染経路等不明です。
- 2 E型肝炎: 4件(うち無症状病原体保有者2件)の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群1件、血清群不明1件の報告がありました。いずれも創傷感染による感染が推定されています。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。男性1件女性1件で、うち1件は同性間性的接触による感染が推定されています。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 50歳代1件、60歳代1件(いずれもワクチン接種歴無)の報告がありました。
- 9 水痘(入院例に限る): 40歳代の検査診断例1件(ワクチン接種歴無)の報告がありました。
- 10 梅毒: 6件の報告がありました。早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症状病原体保有者3件で、男性4件女性2件で、そのうち5件は異性間性的接触による感染が推定されています。
- 11 播種性クリプトコックス症: 90歳代の報告が1件ありました。感染経路等不明です。

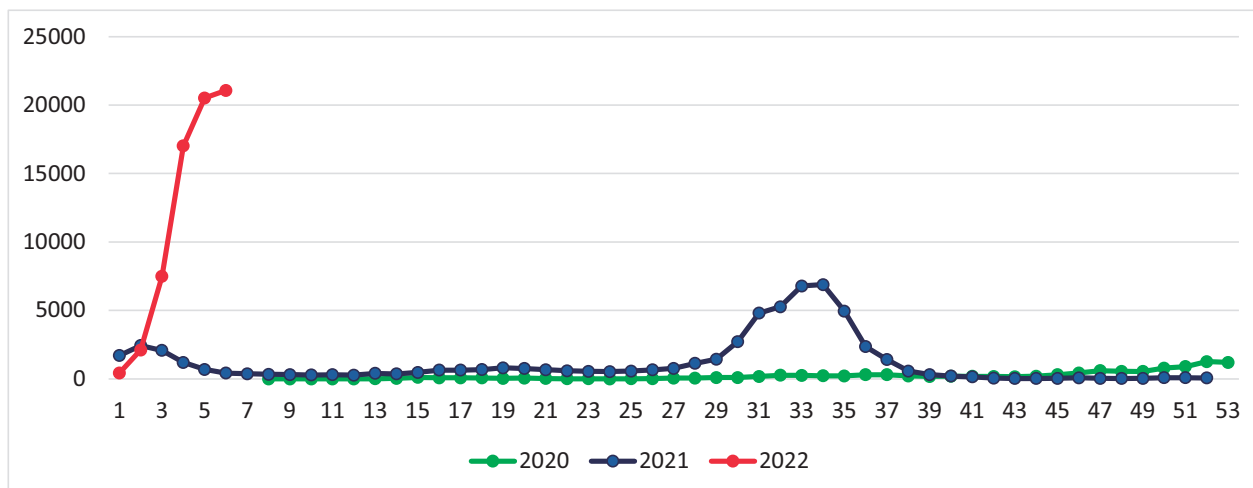
### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第4週～第6週に横浜市から報道発表のありました症例は58,597件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

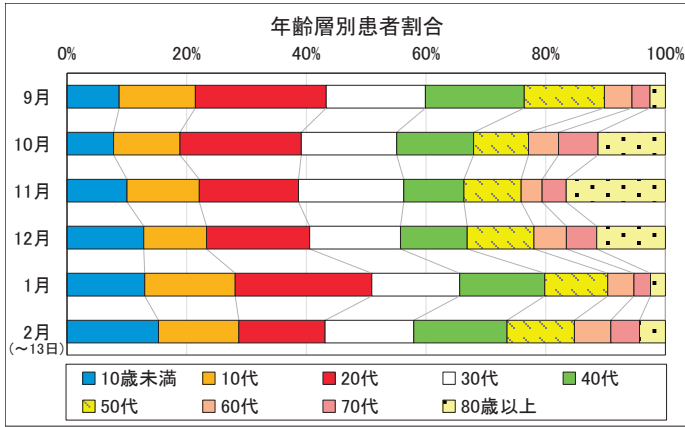
#### 1 報告数の推移

[人]

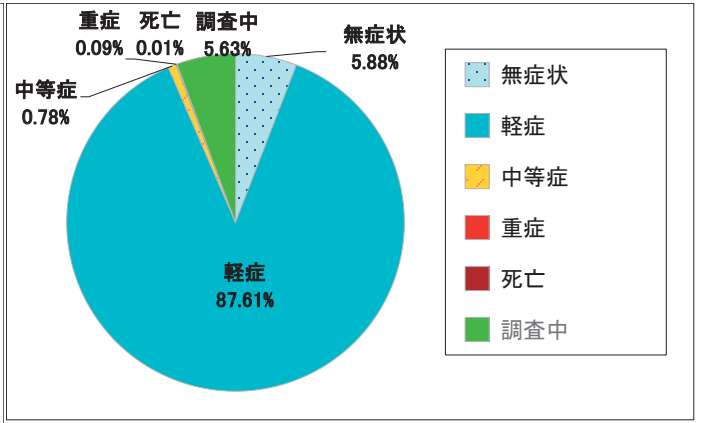


[週]

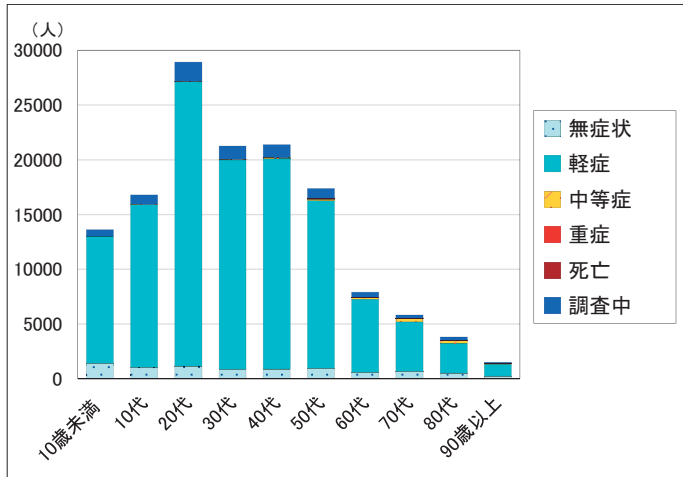
## 2 年齢別割合



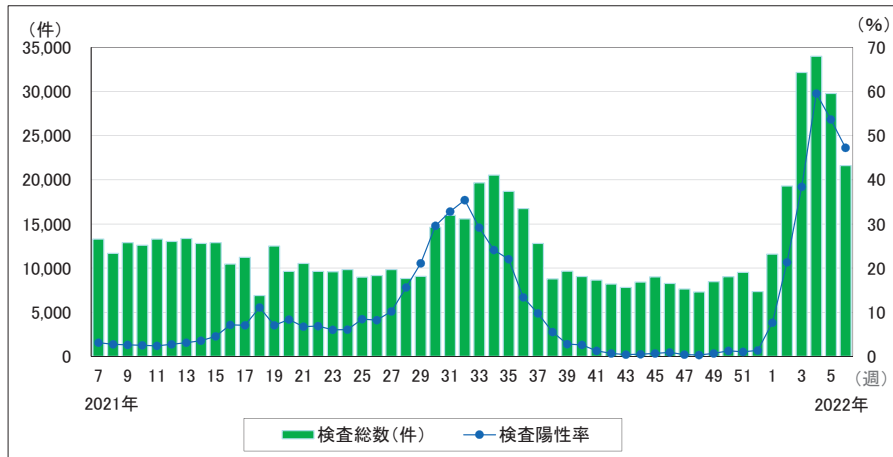
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022 年第 6 週まで)



## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2022 年第 6 週まで)

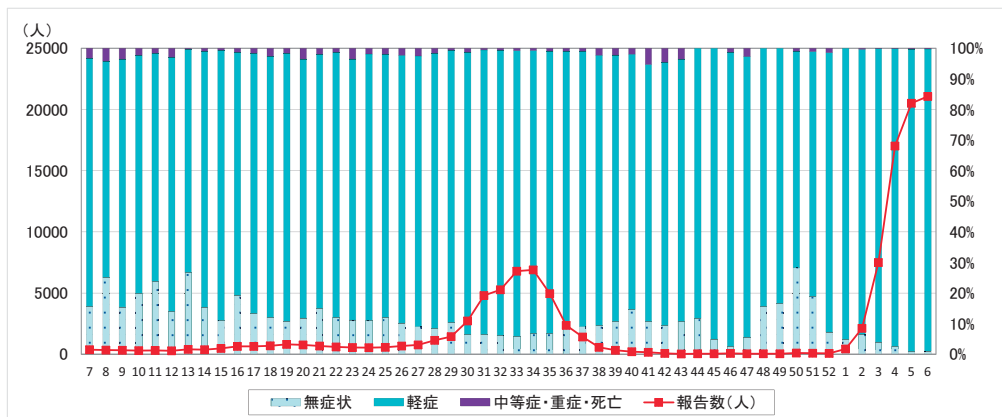


## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2021 年第 7 週~2022 年第 6 週)



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

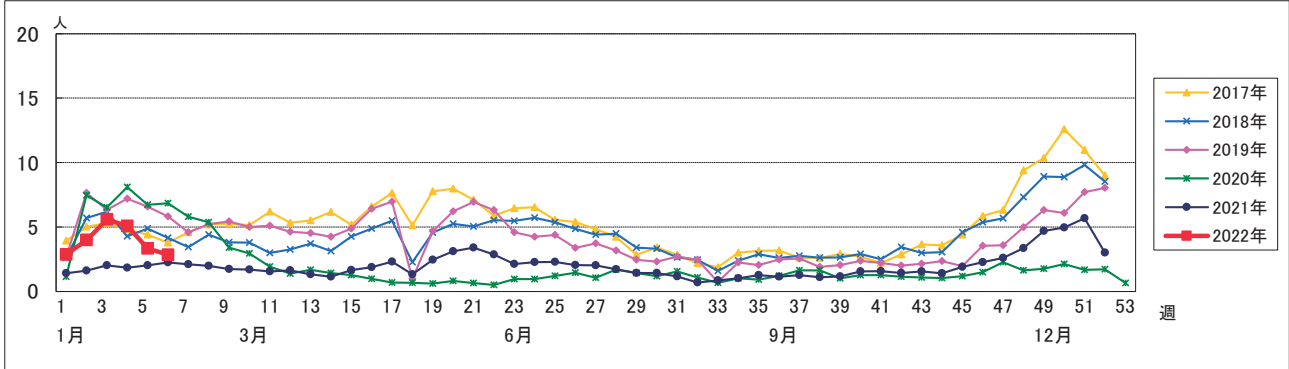
## 6 報告数と届出時点の重症度(2021 年第 7 週~2022 年第 6 週)



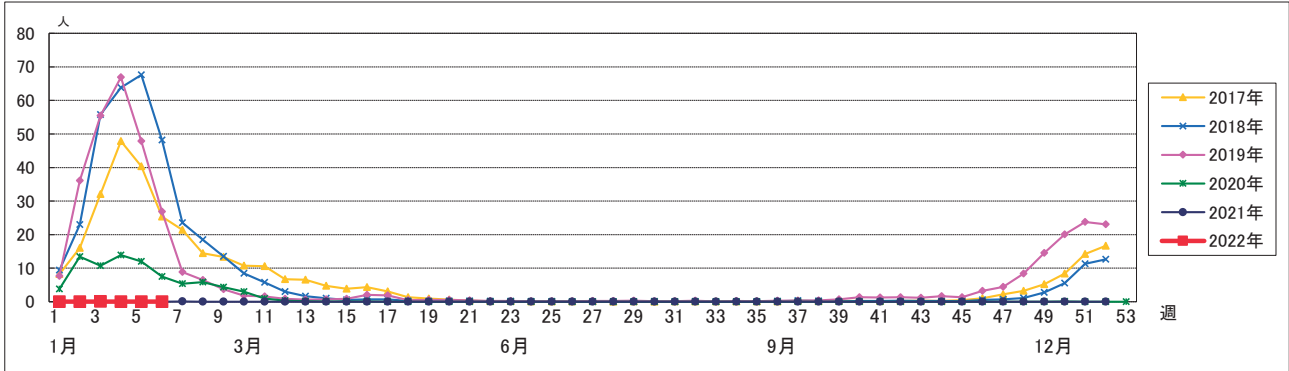
報告週対応表	
第4週	1月24日～1月30日
第5週	1月31日～2月6日
第6週	2月7日～2月13日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 昨年より高めの報告数で推移していますが、第4週5.07、第5週3.33、第6週2.84となっています。



2 インフルエンザ: 例年より低めの報告数で推移していて、第4週0.02、第5週0.02、第6週0.00となっています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:2件	女性:0件	淋菌感染症	男性:22件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

# 令和4年3月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第6週の報告数21,068件をピークに減少傾向にありますが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒の報告が16件で、高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈3月期に報告された全数把握疾患〉

E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	梅毒	16件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7件	播種性クリプトコックス症	1件

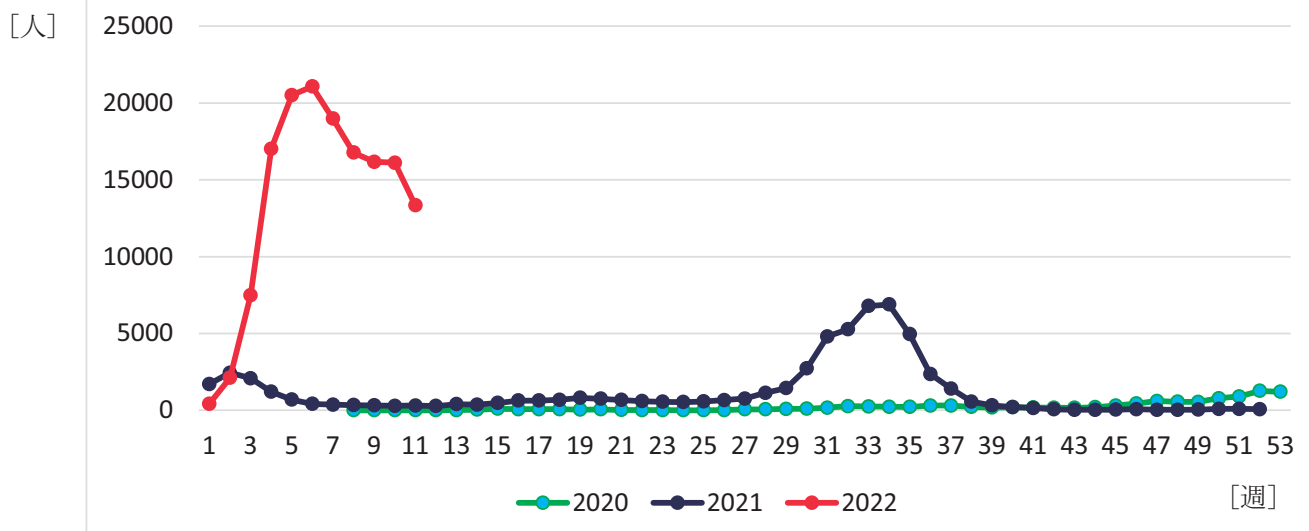
- 1 E型肝炎:4件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。いずれも献血時検査を契機に診断に至っています。(2020年8月5日採血分から、輸血用血液の安全性向上のため、全国一斉にE型肝炎検査(HEV NAT検査)が導入されています(日本赤十字社ホームページより。))
- 2 レジオネラ症:肺炎型1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 ウイルス性肝炎:B型肝炎1件の報告がありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:A群4件、B群1件、G群2件の報告がありました。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDS1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。いずれも男性で、うち1件は異性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症:50歳代1件、70歳代1件、80歳代2件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 8 水痘(入院例に限る):10歳未満の臨床診断例1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 9 梅毒:早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者2件で、男性10件女性6件、すべて性的接触による感染(異性間13件、詳細不明3件)が推定されています。
- 10 播種性クリプトコックス症:免疫不全によるものと推定される80歳代1件の報告がありました。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

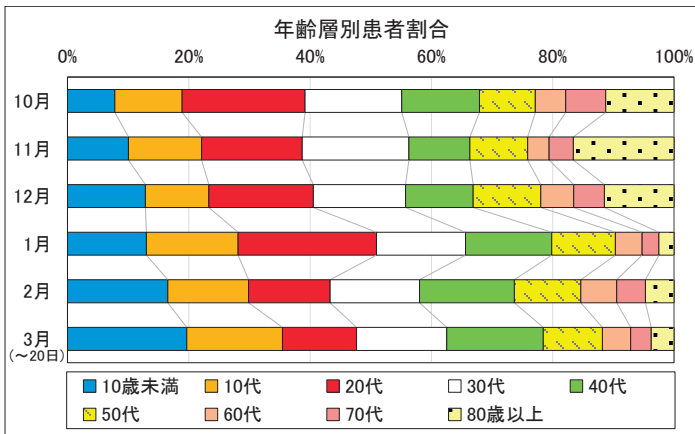
第7週～第11週に横浜市から報道発表のありました症例は81,378件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

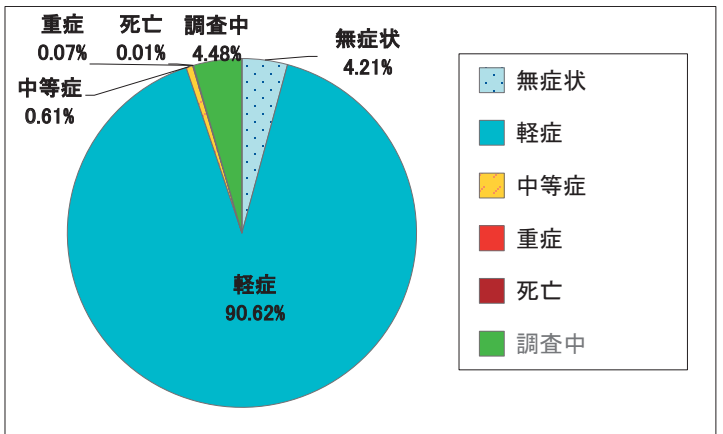
#### 1 報告数の推移



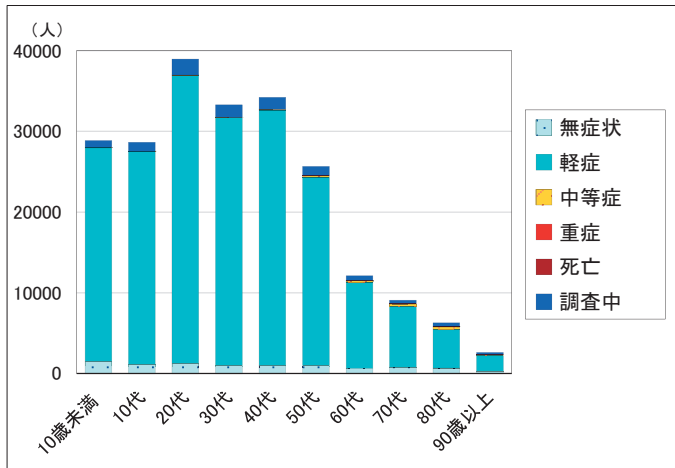
## 2 年齢別割合



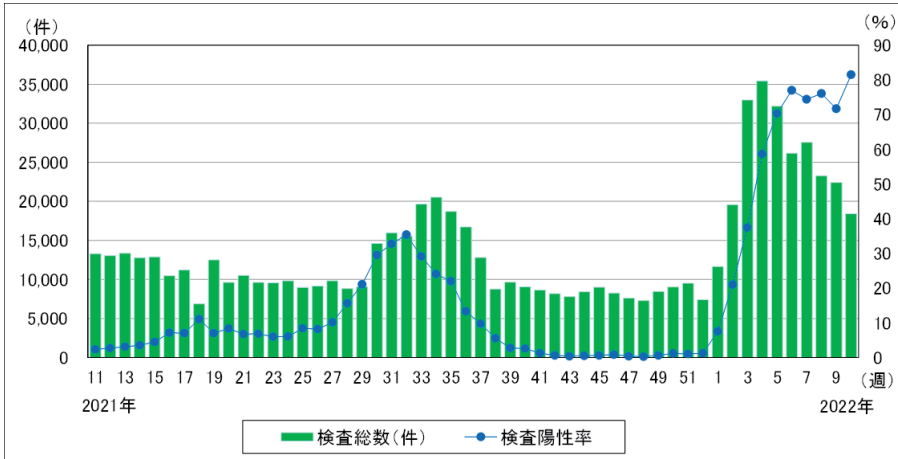
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022 年第 11 週まで)



## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2022 年第 11 週まで)

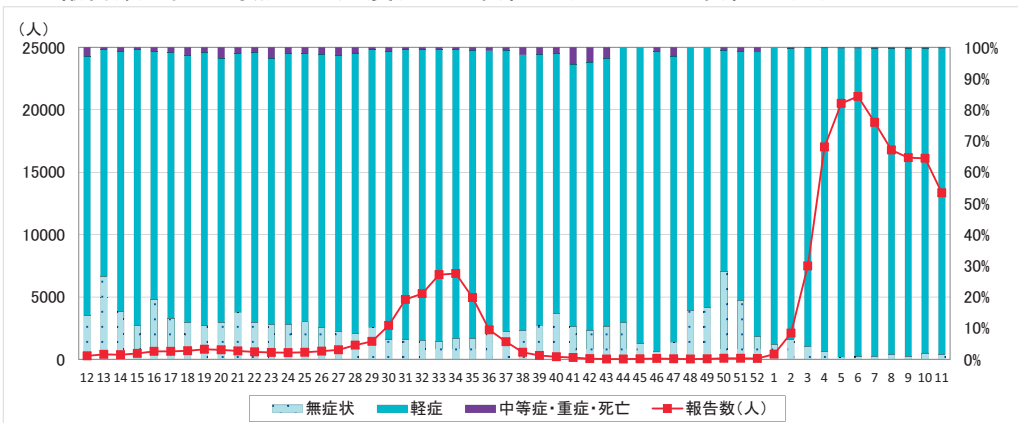


## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2021 年第 11 週~2022 年第 10 週)



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

## 6 報告数と届出時点の重症度(2021 年第 12 週~2022 年第 11 週)

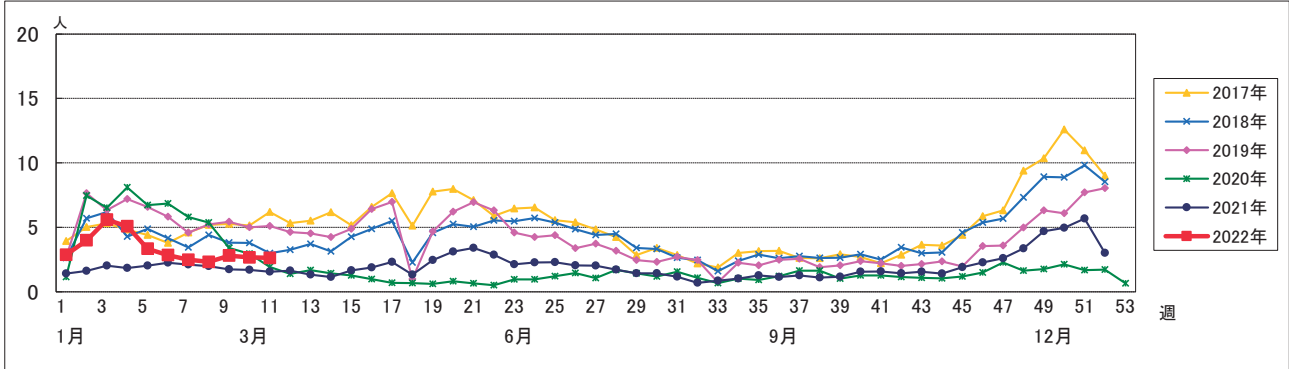




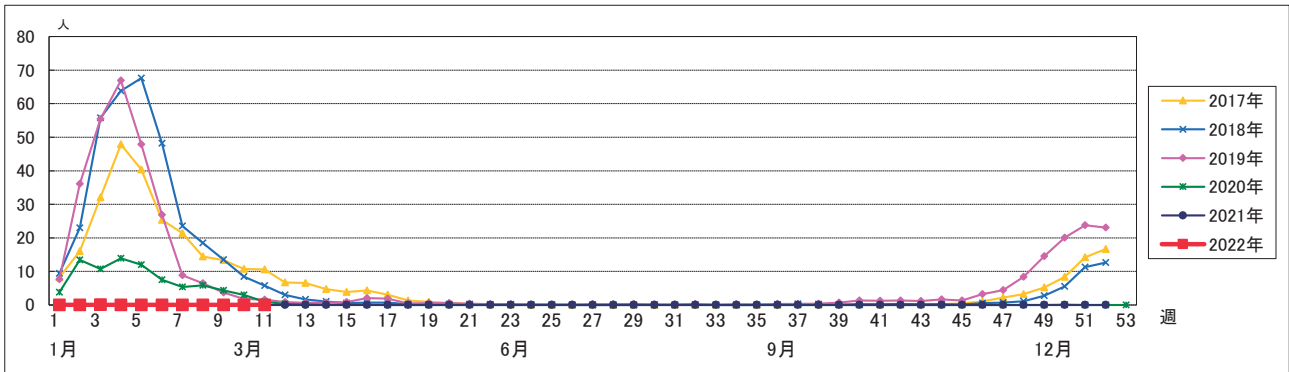
報告週対応表	
第7週	2月14日～2月20日
第8週	2月21日～2月27日
第9週	2月28日～3月6日
第10週	3月7日～3月13日
第11週	3月14日～3月20日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 昨年より高めの報告数で推移していて、第7週～第11週が、2.48、2.31、2.79、2.67、2.63と横ばいとなっています。



2 インフルエンザ: 例年より低めの報告数で推移しています。第8週～第11週は0.00となっています。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:20件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:2件	淋菌感染症	男性:11件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.66	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

# 令和4年4月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第6週の報告数21,068件をピークに減少傾向にあります。小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒の報告は14件で、高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### <4月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	14件
急性脳炎	1件	百日咳	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件		

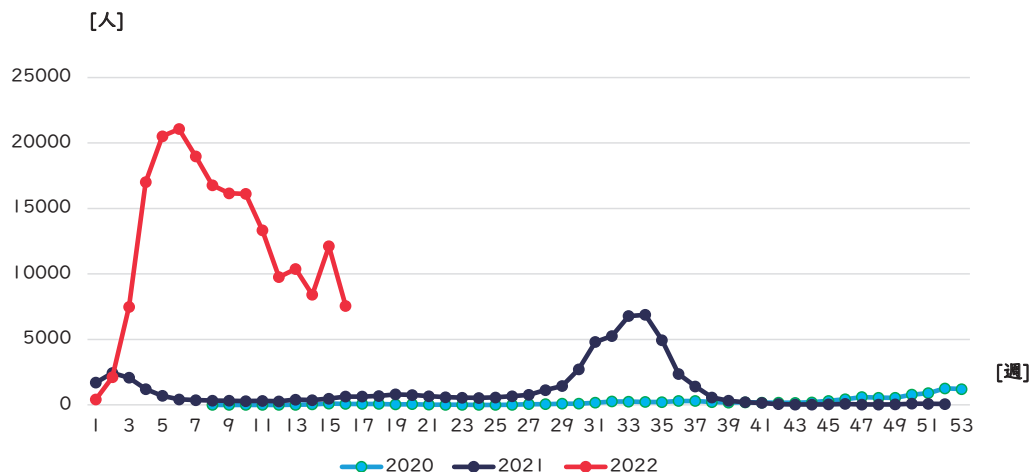
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: O157の報告が2件、O26およびO不明の無症状病原体保有者の報告が1件ずつありました。1件は国内での経口感染と推定され、3件は感染経路等不明でした。
- 2 **E型肝炎**: 国内での経口感染と推定される報告が3件(うち1件は無症状病原体保有者)ありました。
- 3 **A型肝炎**: 国内での経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 4 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 4件の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- 5 **急性脳症**: 幼児の報告が1件ありました。病原体は不明です。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: B群とG群の報告が1件ずつあり、いずれも感染経路等不明でした。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: AIDS 1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染と推定されています。
- 8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 70歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満1件(ワクチン4回接種)、60歳代1件(ワクチン接種歴不明)、70歳代1件(ワクチン1回接種)の報告がありました。
- 10 **梅毒**: 早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。性的接触による感染が13件(異性間10件、同性間2件、詳細不明1件)、感染経路等不明が1件でした。
- 11 **百日咳**: 40歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。感染経路等不明です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

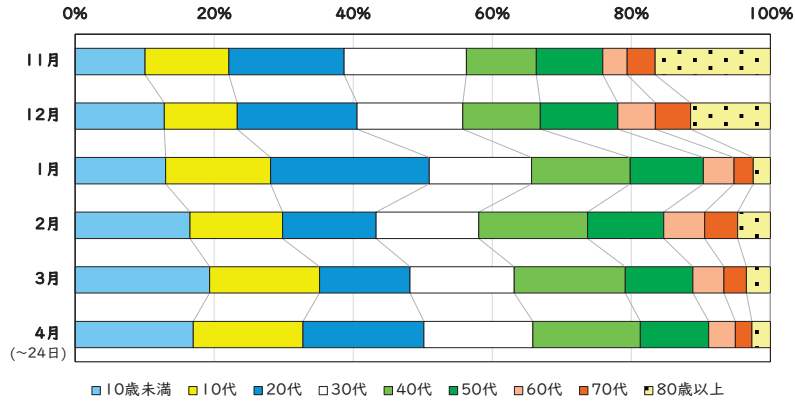
第12週～第16週に横浜市から報道発表がありました症例は48,246件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

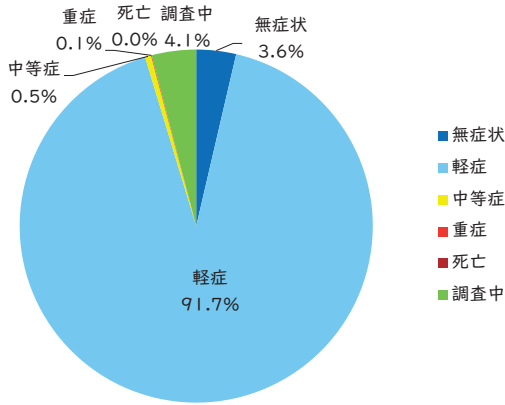
#### 1 報告数の推移



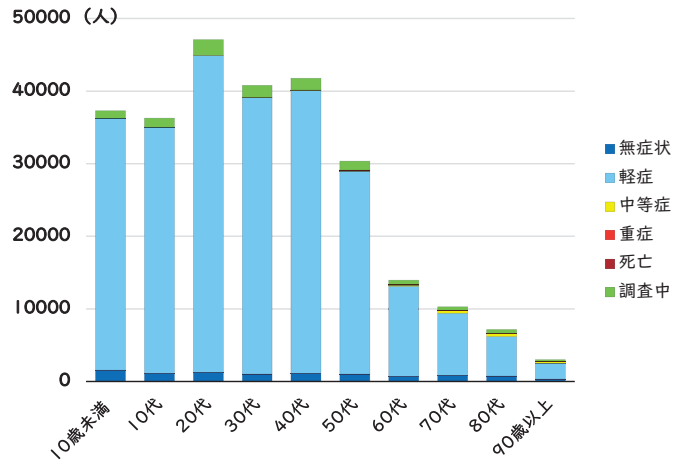
## 2 年齢層別患者割合



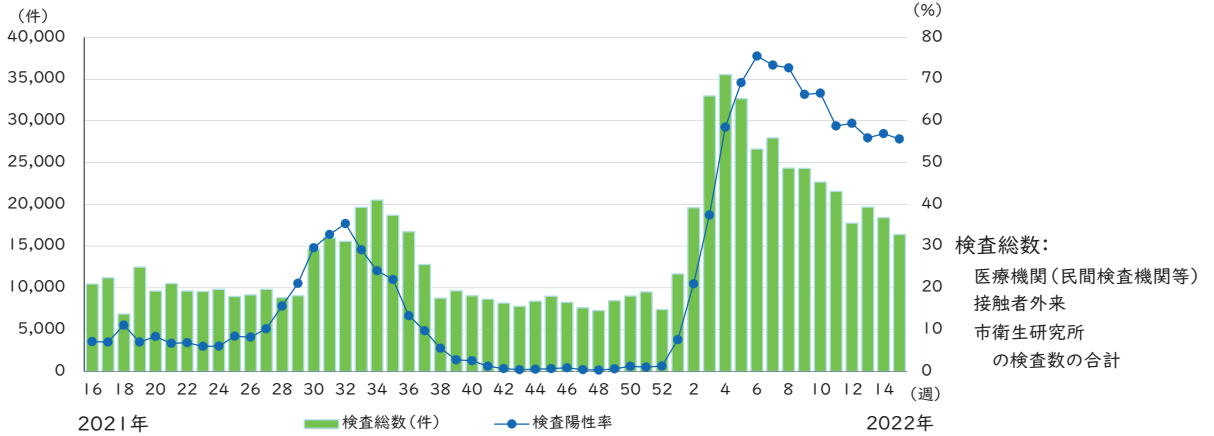
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022 年第 16 週まで)



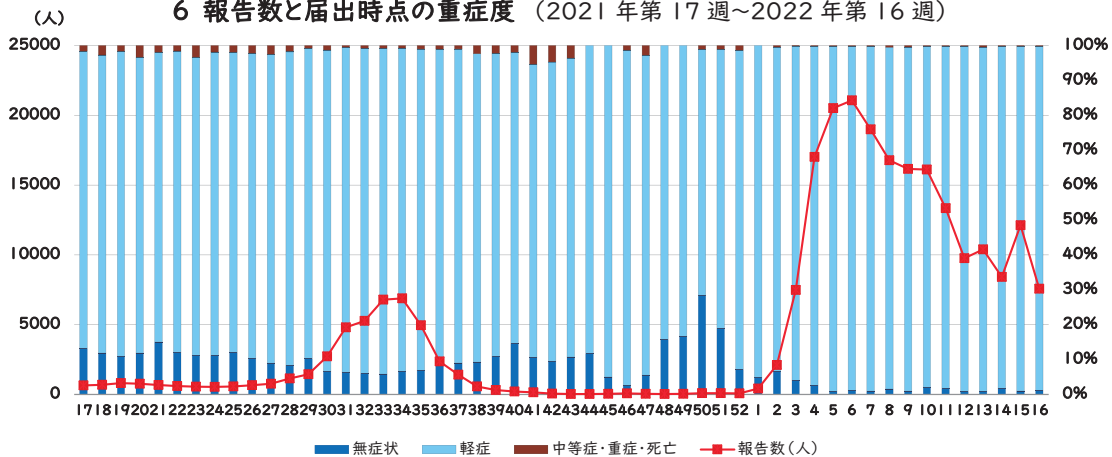
## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022 年第 16 週まで)



## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021 年第 16 週~2022 年第 15 週)



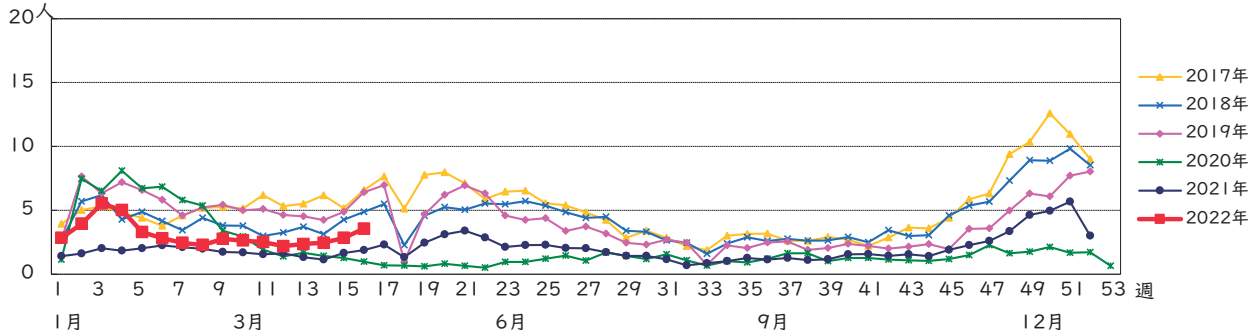
## 6 報告数と届出時点の重症度 (2021 年第 17 週~2022 年第 16 週)



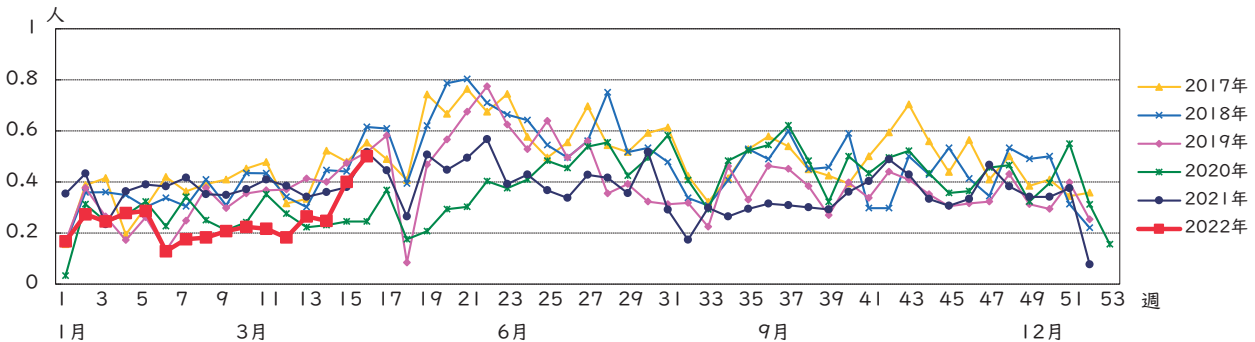
報告週対応表	
第12週	3月21日～3月27日
第13週	3月28日～4月3日
第14週	4月4日～4月10日
第15週	4月11日～4月17日
第16週	4月18日～4月24日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎：昨年より高めで推移しています。第3週の5.52をピークに、第12週で2.19と減少していましたが、第15週は2.84、第16週は3.56と増加しています。



2 突発性発しん：昨年より低めで推移していましたが、第14週は0.25、第15週は0.4、第16週は0.5と急増しています。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:1件	淋菌感染症	男性:16件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/>

# 令和4年5月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第6週の報告数21,068件をピークに減少傾向にありますが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒の報告は13件で、高い水準で続いています。20代の女性の報告もみられます。

### ◇ 全数把握の対象

#### <5月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
デング熱	1件	水痘(入院例に限る)	3件
レジオネラ肺炎	1件	梅毒	13件
アメーバ赤痢	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	破傷風	1件

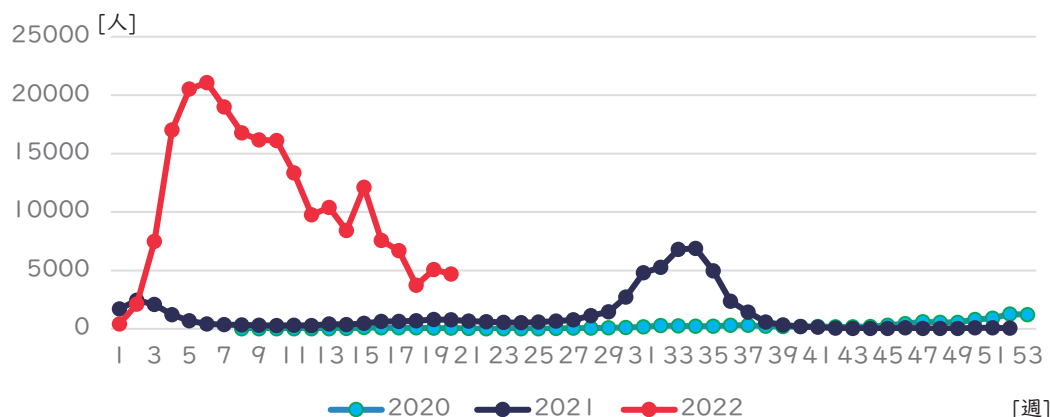
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: O157の報告が1件、O26の報告が2件ありました。1件は経口感染と推定され、2件は感染経路等不明でした。
- 2 **E型肝炎**: 経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 **デング熱**: フィリピン(セブ島)での滞在中に蚊に刺されて感染したと推定される報告が1件ありました。
- 4 **レジオネラ症**: 水系感染と推測される報告が1件ありました。
- 5 **アメーバ赤痢**: 国内での経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 感染経路等不明の報告が5件ありました。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: B群の報告が1件あり、尿路感染と推定されています。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満(ワクチン3回接種)の報告が1件ありました。
- 9 **水痘(入院例に限る)**: 20歳代(ワクチン1回接種)、30歳代(ワクチン接種無)、80歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が3件ありました。
- 10 **梅毒**: 早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。性的接触による感染が13件(異性間9件、同性間1件、詳細不明3件)でした。20代の女性の報告もみられます。
- 11 **播種性クリプトコックス症**: 免疫不全に伴う感染と推定される報告が1件ありました。
- 12 **破傷風**: 国内での創傷感染(ワクチン接種歴不明)と推定される報告が1件ありました。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

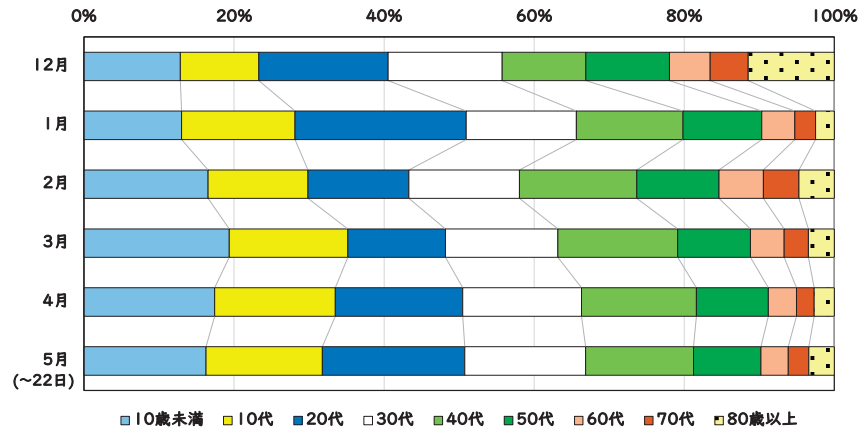
第17週～第20週に横浜市から報道発表がありました症例は20,180件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

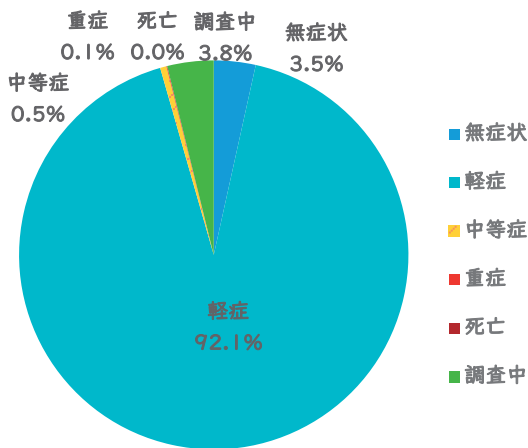
#### 1 報告数の推移



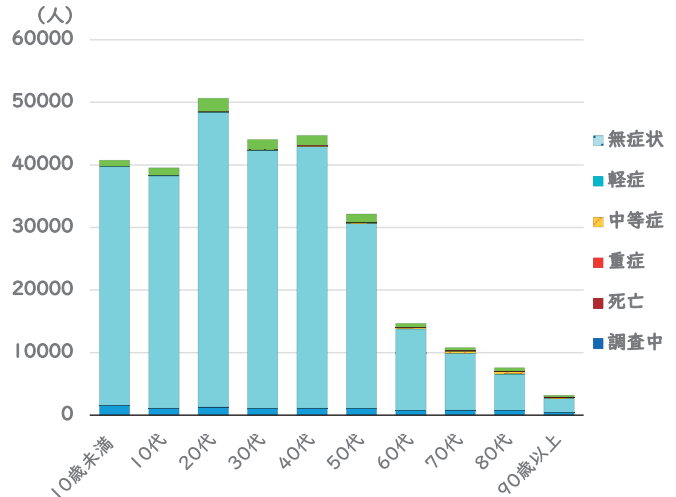
## 2 年齢層別患者割合



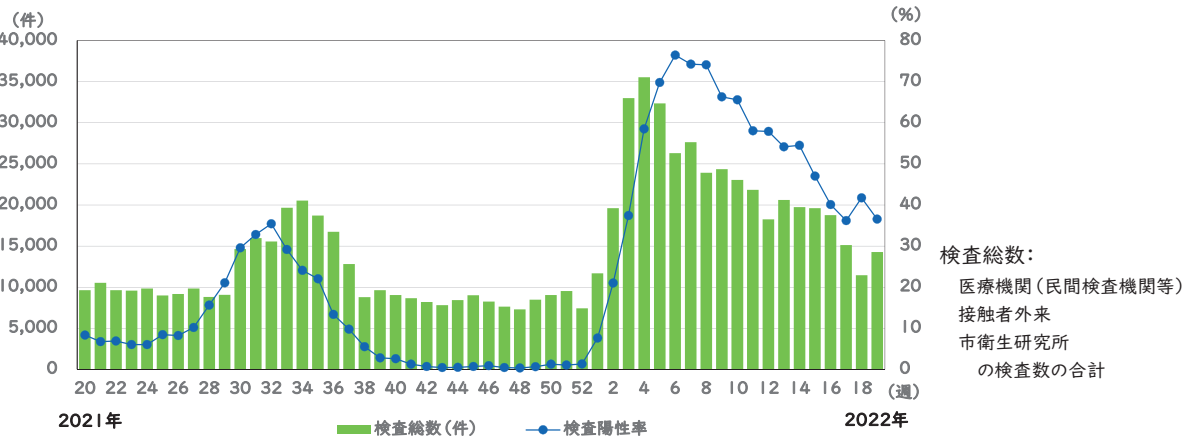
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022年第20週まで)



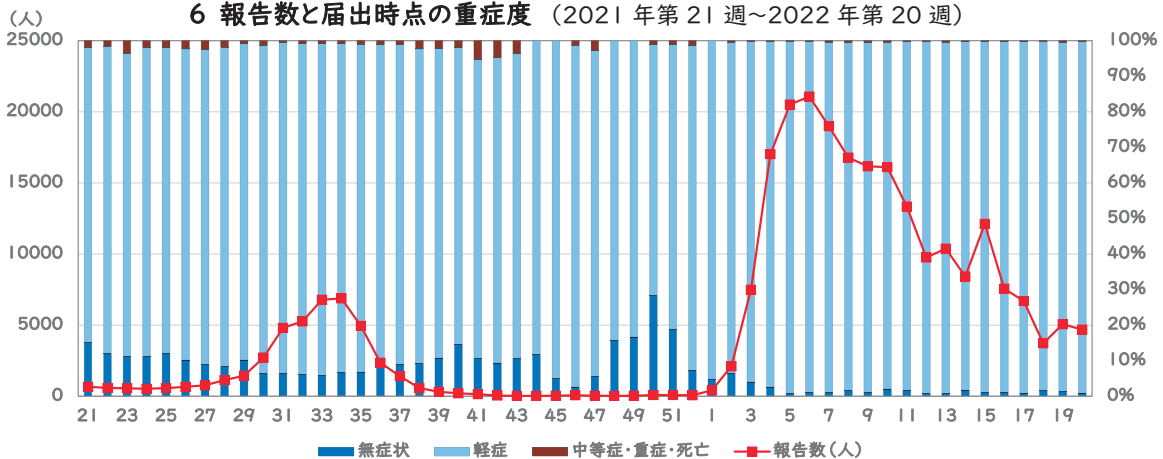
## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第20週まで)



## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第20週~2022年第19週)



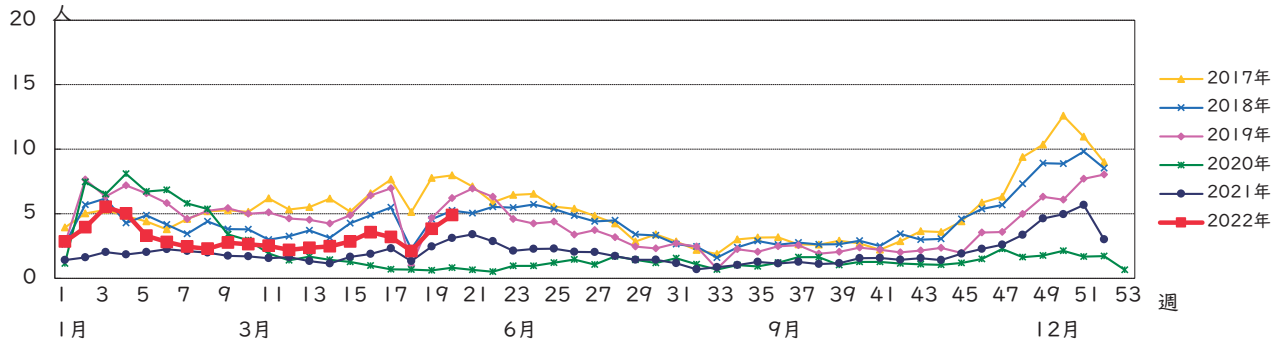
## 6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第21週~2022年第20週)



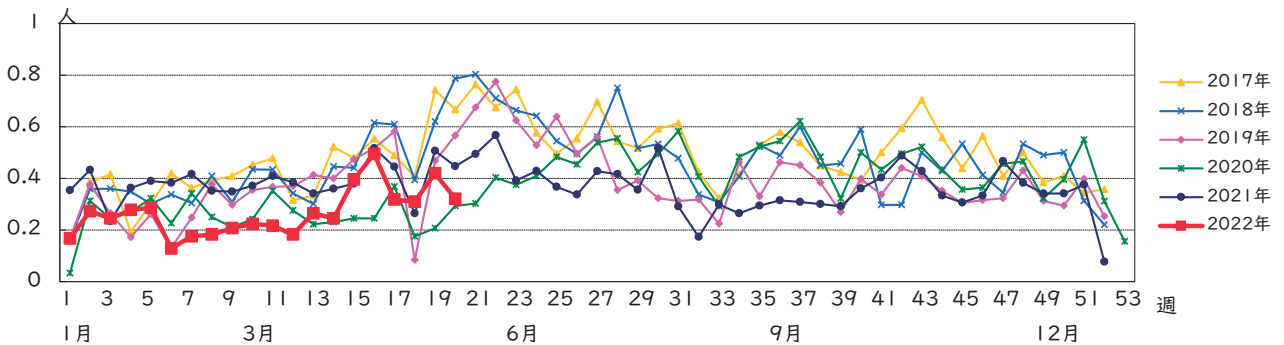
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第17週	4月25日～5月1日
第18週	5月2日～5月8日
第19週	5月9日～5月15日
第20週	5月16日～5月22日

1 感染性胃腸炎：昨年より高めで推移しています。第3週の5.52をピークに、第12週で2.19と減少していましたが、第19週3.83、第20週で4.89と増加しています。



2 突発性発しん：昨年より低めで推移しています。第19週は0.42と増加しましたが、第20週は0.32と減少しています。



3 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性：37件	女性：8件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性：7件	女性：6件
尖圭コンジローマ	男性：4件	女性：2件	淋菌感染症	男性：15件	女性：1件

4 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

# 令和4年6月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症が増加しています。
- 感染性胃腸炎が高い水準で続いています。
- 梅毒や性器クラミジア感染症など、性感染症が高い水準で続いています。梅毒では、妊婦の報告もみられます。

### ◇ 全数把握の対象

#### <6月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	21件	クロイツフェルト・ヤコブ病	2件
E型肝炎	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
レジオネラ肺炎	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	5件	水痘(入院例に限る)	1件
ウイルス性肝炎	2件	梅毒	34件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1件

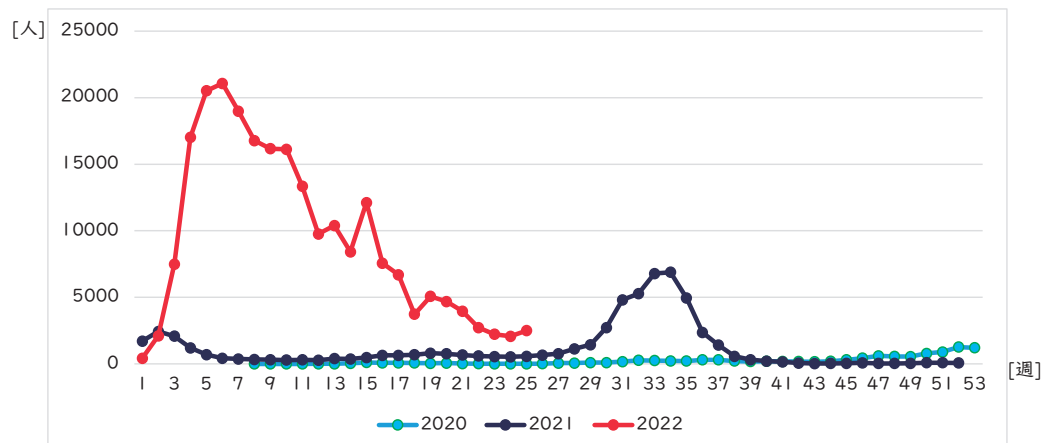
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳未満~70歳代で、O157が13件、O26が2件、O103が2件、O104が1件、O128が1件、O不明が2件報告されました。9件は経口感染、1件は接触感染と推定され、11件は感染経路等不明でした。
- 2 **E型肝炎**: 40歳代~70歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 3 **A型肝炎**: 70歳代で、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 4 **レジオネラ症**: 70歳代~90歳代で、水系感染と推測される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 5 **アメーバ赤痢**: 40歳代~70歳代で、性的接触と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 6 **ウイルス性肝炎**: B型肝炎(30歳代と50歳代)の報告が2件ありました。性的接触、感染経路等不明がそれぞれ1件でした。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 40歳代~90歳代で、感染経路等不明の報告が6件ありました。
- 8 **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 70歳代と80歳代で、孤発例の報告が2件ありました。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 30歳代~80歳代で、A群が1件、B群が1件、G群が2件、血清群不明が1件報告されました。1件は創傷感染が推定され、4件は感染経路等不明でした。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 30歳代で、無症状病原体保有者が2件、その他が1件報告されました。いずれも性的接触と推定されています。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満(ワクチン4回接種)の報告が2件ありました。
- 12 **水痘(入院例に限る)**: 80歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。
- 13 **梅毒**: 10歳代~70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期10件、早期顕症梅毒Ⅱ期18件、無症状病原体保有者6件の報告がありました。性的接触による感染が30件(異性間24件、同性間4件、詳細不明2件)、感染経路等不明が4件でした。
- 14 **薬剤耐性アシネトバクター感染症**: 40歳代男性の報告が1件ありました。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第21週~第25週に横浜市から報道発表がありました症例は13,491件でした。

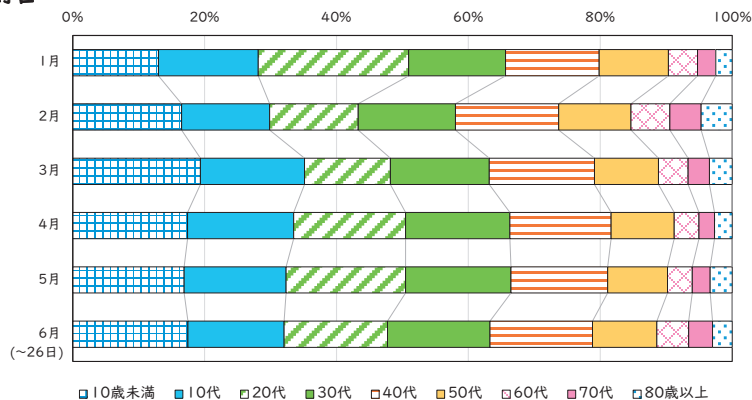
◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

#### 1 報告数の推移

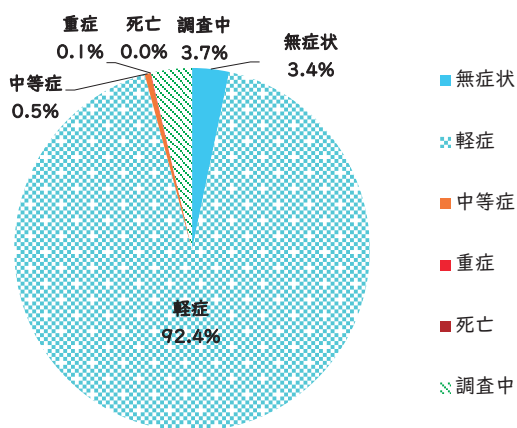




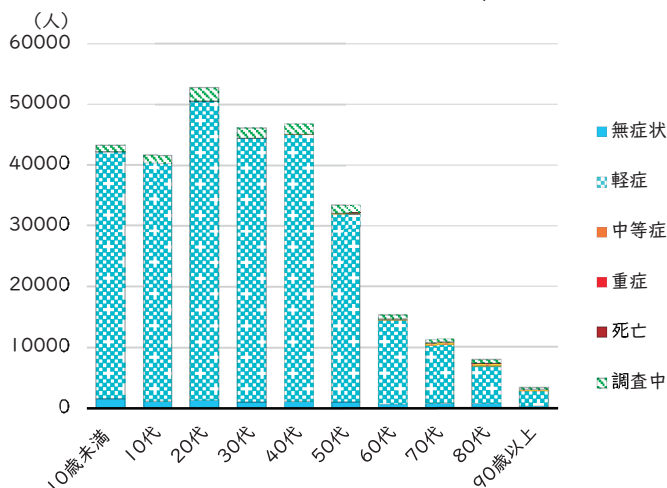
## 2 年齢層別患者割合



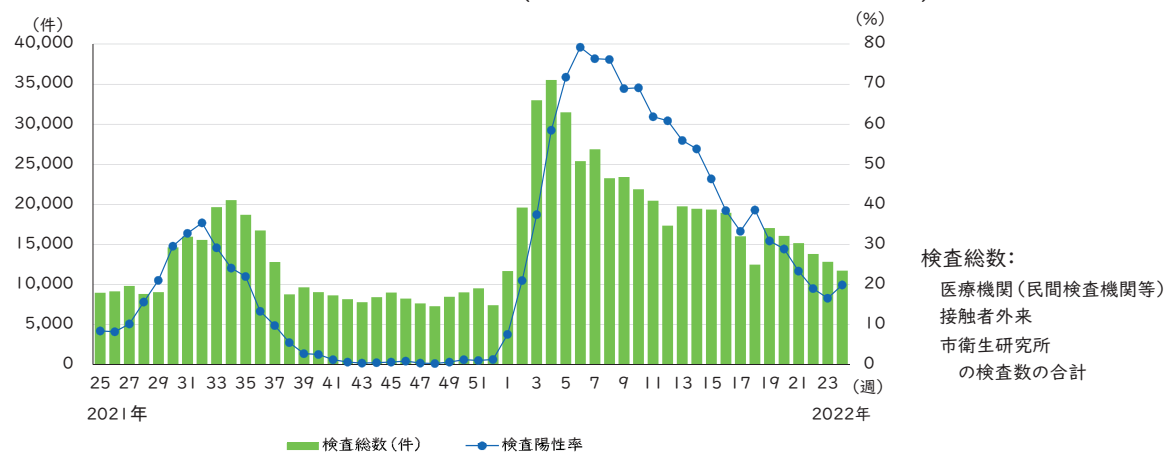
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022年第25週まで)



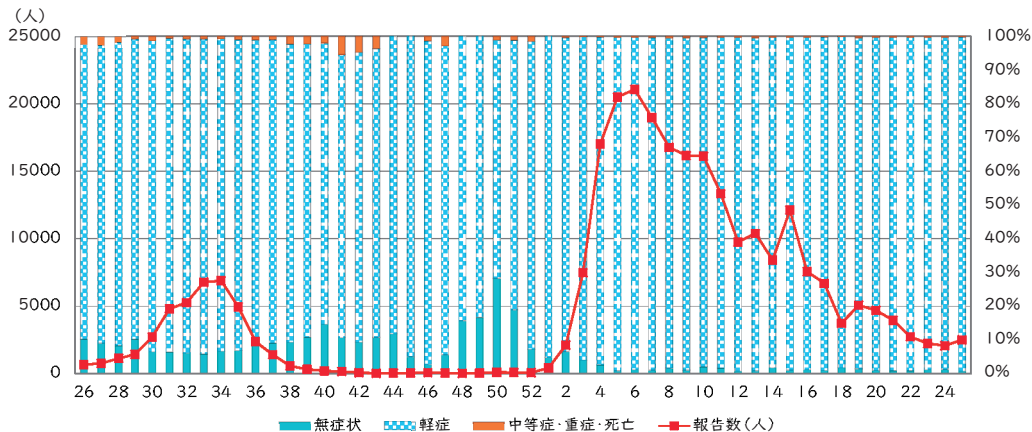
## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2022年第25週まで)



## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2021年第20週~2022年第19週)



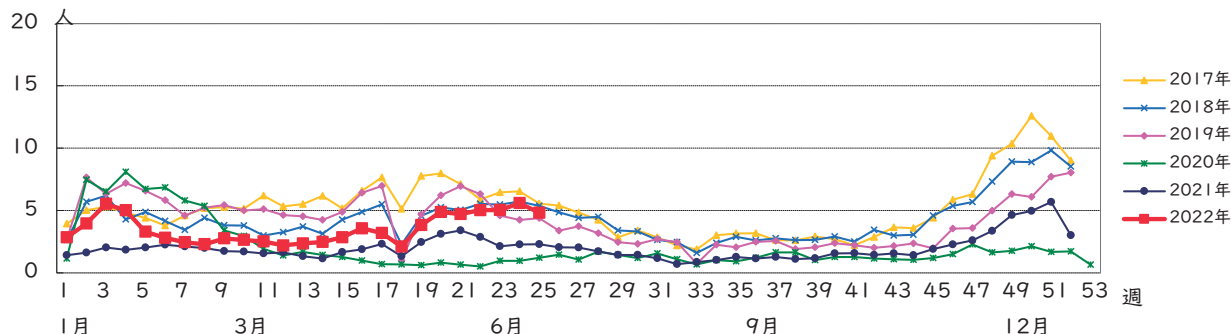
## 6 報告数と届出時点の重症度(2021年第26週~2022年第25週)



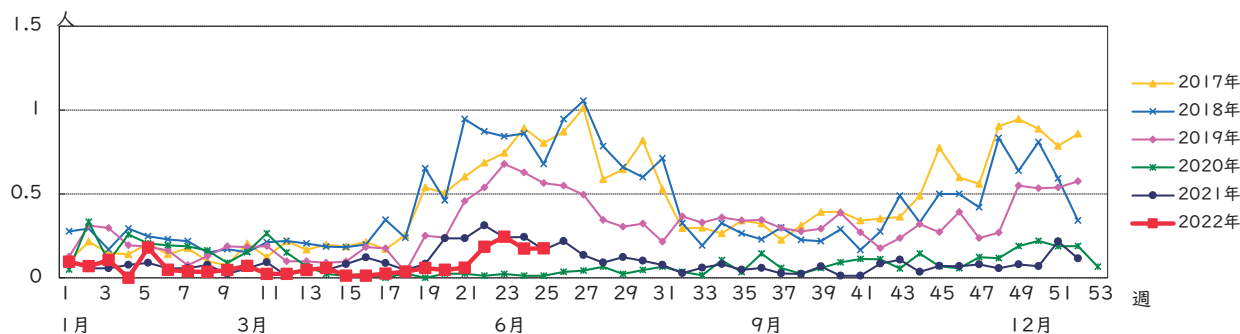
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第21週	5月23日～5月29日
第22週	5月30日～6月5日
第23週	6月6日～6月12日
第24週	6月13日～6月19日
第25週	6月20日～6月26日

1 感染性胃腸炎：昨年より高めで推移しています。第18週は2.10でしたが、その後増加に転じ、第23週は5.03、第24週は5.59、第25週は4.81となっています。



2 咽頭結膜熱：例年より低めで推移していますが、第22週は0.18、第23週は0.24と増加し、第24週は0.17、第25週は0.18となっています。



3 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性：47件	女性：17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性：9件	女性：6件
尖圭コンジローマ	男性：9件	女性：2件	淋菌感染症	男性：16件	女性：1件

4 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.66	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	17件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

# 令和4年7月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症が急増しています。
- 手足口病が増加し、市内複数の地域で警報レベルに達しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症が多く発生しています。
- 梅毒などの性感染症は、高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### <7月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	18件	急性脳炎	1件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
日本紅斑熱	1件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	7件	梅毒	15件
アメーバ赤痢	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
ウイルス性肝炎	2件	麻しん	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件		

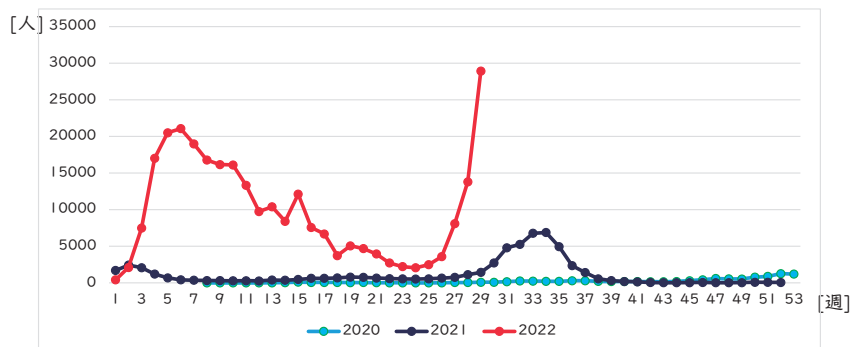
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代~90歳代で、O157が9件、O26が1件、O103が2件、O不明が6件報告されました。9件は経口感染と推定され、9件は感染経路等不明です。
- 2 **E型肝炎**: 30歳代で、感染経路等不明です。
- 3 **デング熱**: 20歳代で、蚊による感染(海外)と推定されています。
- 4 **日本紅斑熱**: 70歳代で、マダニによる感染と推定されています。
- 5 **レジオネラ症**: 50歳代~80歳代で、水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 6 **アメーバ赤痢**: 70歳代で、感染経路等不明です。
- 7 **ウイルス性肝炎**: 30歳代~60歳代で、B型が1件(ワクチン接種歴無)、CMVが1件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 9 **急性脳炎**: 10歳未満で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 10歳未満で、感染経路等不明です。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満(ワクチン4回接種)の報告が2件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 12 **水痘(入院例に限る)**: 50歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 13 **梅毒**: 20歳代~60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件の報告がありました。いずれも性的接触による感染(異性間13件、同性間1件、詳細不明1件)です。
- 14 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**: 80歳代、感染経路等不明です。
- 15 **麻しん**: 70歳代(ワクチン接種歴無)で、感染経路等不明です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

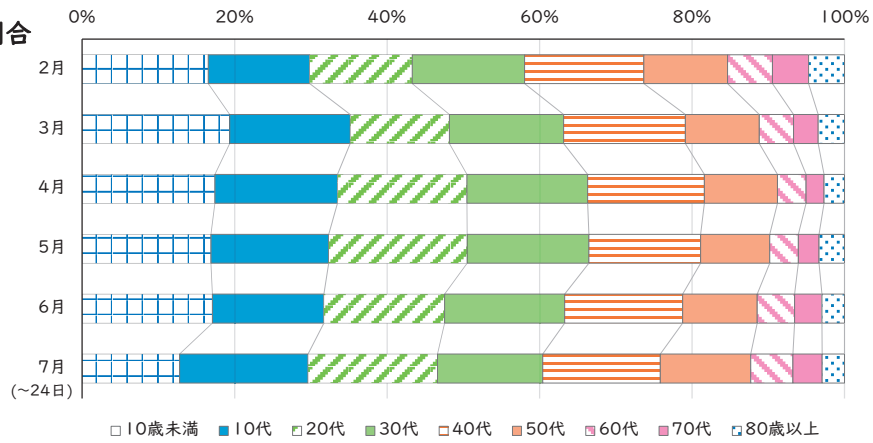
第26週~第29週に横浜市から報道発表がありました症例は54,409件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

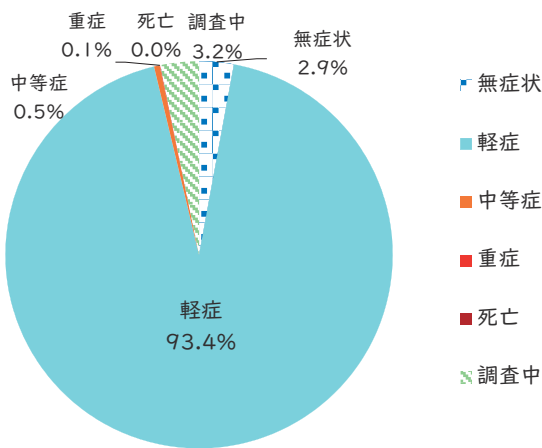
#### 1 報告数の推移



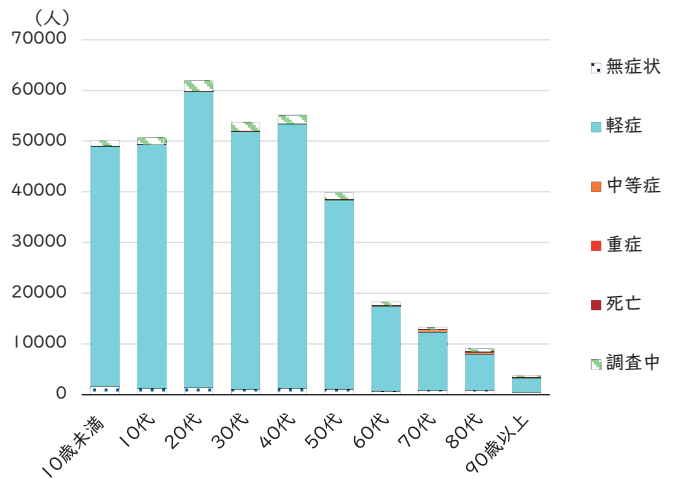
## 2 年齢層別患者割合



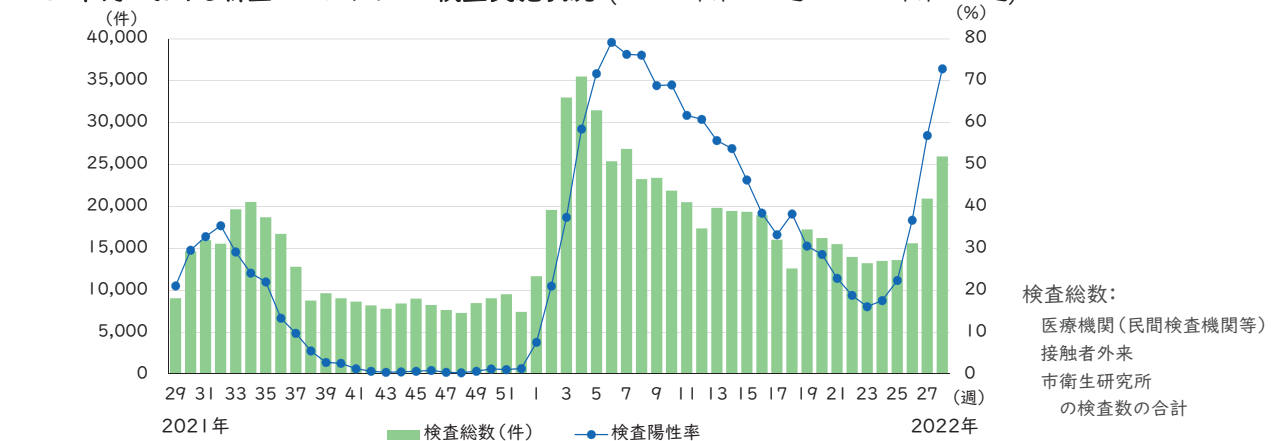
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022 年第 29 週まで)



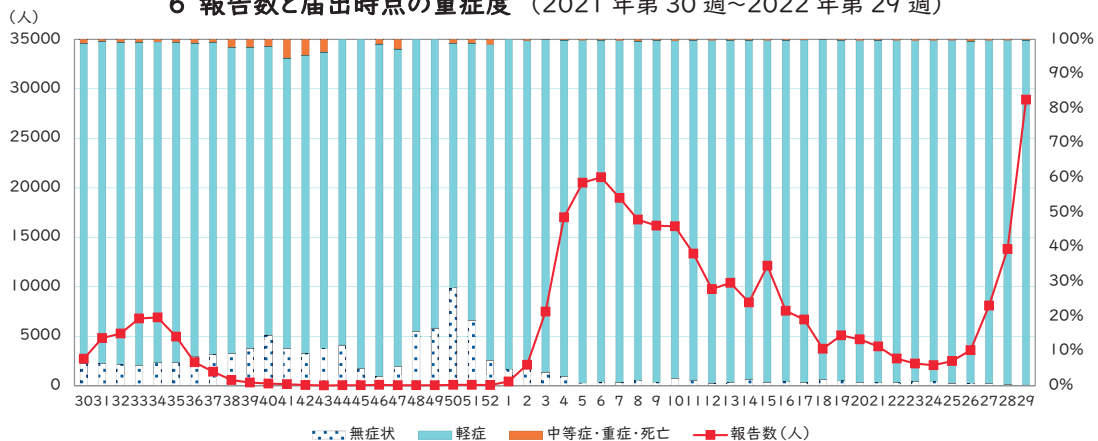
## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022 年第 29 週まで)



## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021 年第 29 週~2022 年第 28 週)



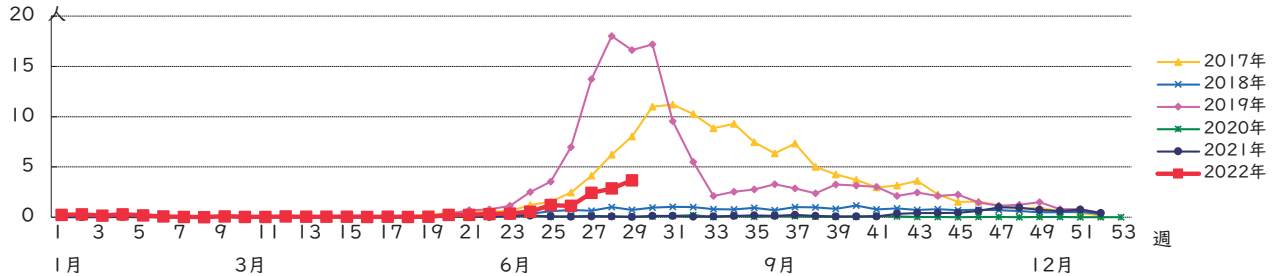
## 6 報告数と届出時点の重症度 (2021 年第 30 週~2022 年第 29 週)



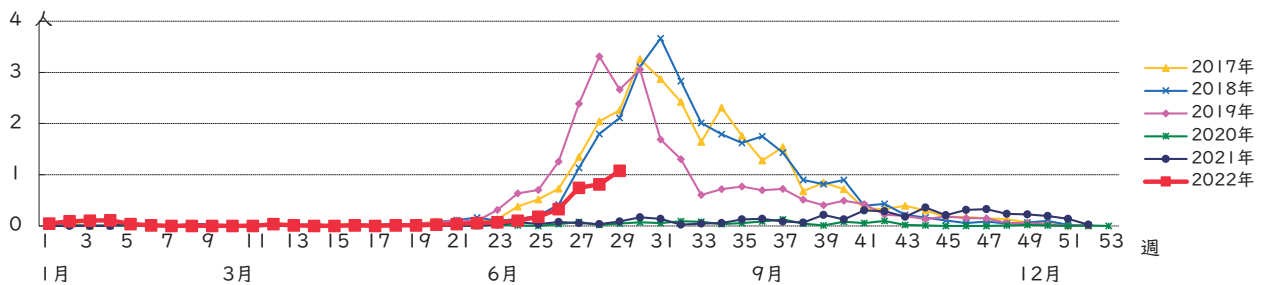
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第26週	6月27日～7月3日
第27週	7月4日～7月10日
第28週	7月11日～7月17日
第29週	7月18日～7月24日

1 手足口病：第20週以降増加が続き、第27週は2.42、第28週は2.86、第29週は3.68と増加しています。市内複数の地域で警報レベルに達しています。



2 ヘルパンギーナ：第20週以降増加が続き、第27週は0.74、第28週は0.81、第29週は1.08と増加しています。



3 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性：34件	女性：17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性：10件	女性：4件
尖圭コンジローマ	男性：8件	女性：2件	淋菌感染症	男性：13件	女性：3件

4 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/>

# 令和4年8月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第31週の報告数39,708件をピークに減少傾向にありますが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 手足口病は流行警報レベルに達し、市内で流行が続いています。
- ヒトメタニューモウイルス、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス等が検出されています。
- 梅毒などの性感染症は、高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### <8月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	11件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件
E型肝炎	2件	クロイツフェルト・ヤコブ病	2件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	10件

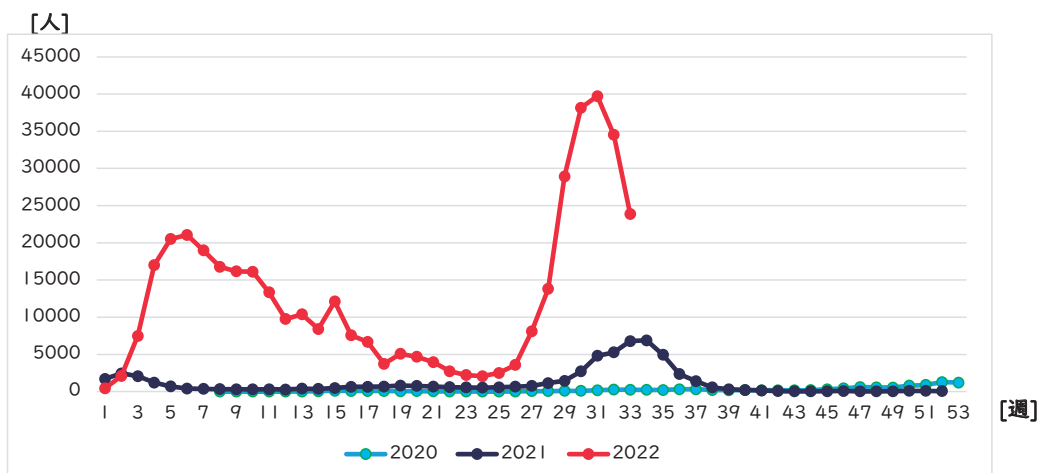
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代~60歳代で、O157が9件、O103及びO145の報告が1件ずつありました。6件は国内での経口感染、1件は接触感染と推定され、4件は感染経路等不明です。
- 2 **E型肝炎**: 50歳代~80歳代で、1件は国内での経口感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 3 **A型肝炎**: 20歳代(ワクチン接種歴不明)で、国内での経口感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症**: 20歳代~90歳代で、1件は国内での水系感染と推定され、2件は感染経路等不明です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 50歳代~60歳代で、1件は性的接触(異性間)と推定され、3件は感染経路等不明です。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 7 **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 70歳代で、孤発例の報告が2件ありました。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満(ワクチン4回接種)、80歳代(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。1件は飛沫・飛沫核感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 9 **水痘(入院例に限る)**: 50歳代(ワクチン接種歴不明)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 **梅毒**: 30歳代~60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。性的接触による感染が8件(異性間6件、詳細不明2件)、感染経路等不明が2件です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

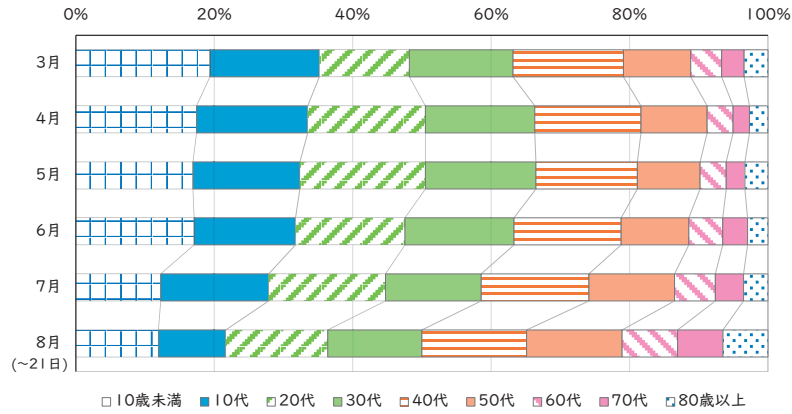
第30週~第33週に横浜市から報道発表がありました症例は136,255件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

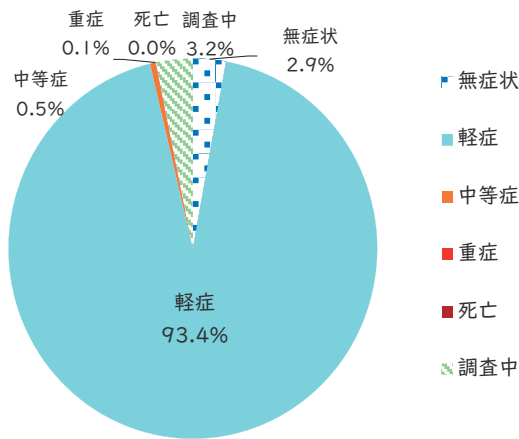
### 1 報告数の推移



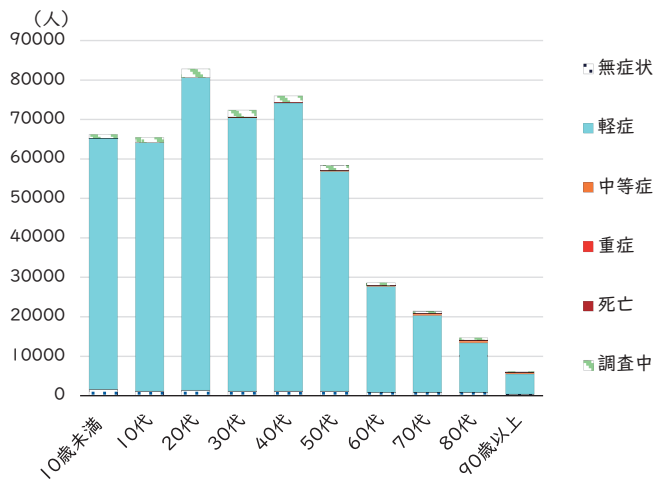
## 2 年齢層別患者割合



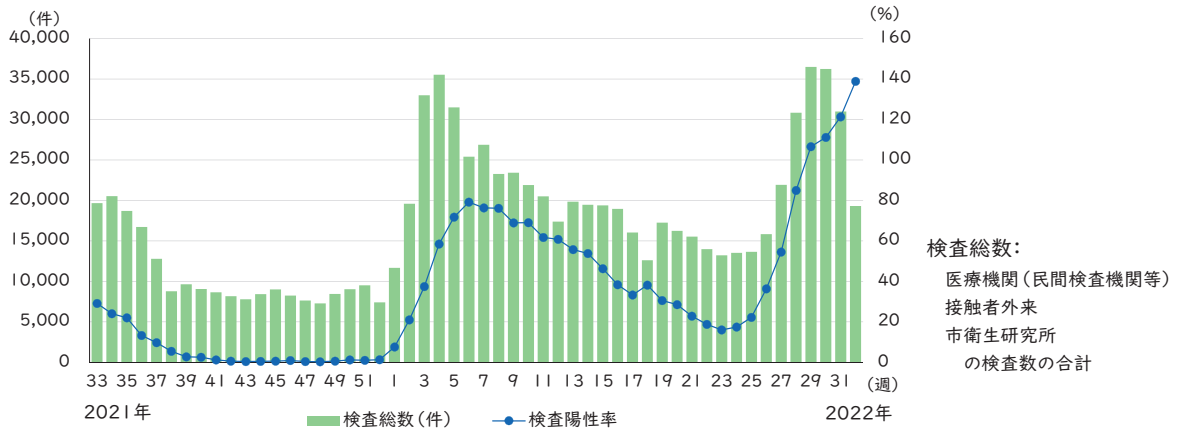
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022年第33週まで)



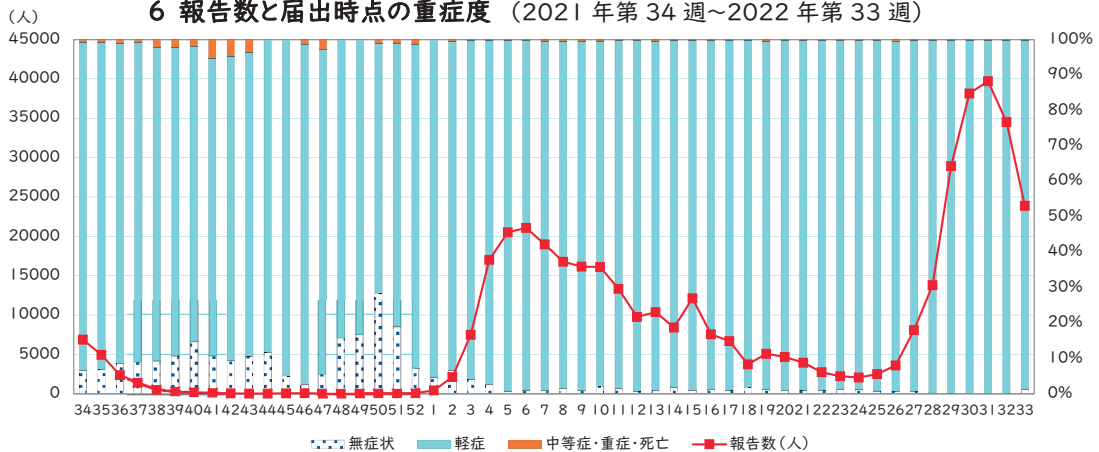
## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2022年第33週まで)



## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2021年第33週~2022年第32週)



## 6 報告数と届出時点の重症度(2021年第34週~2022年第33週)

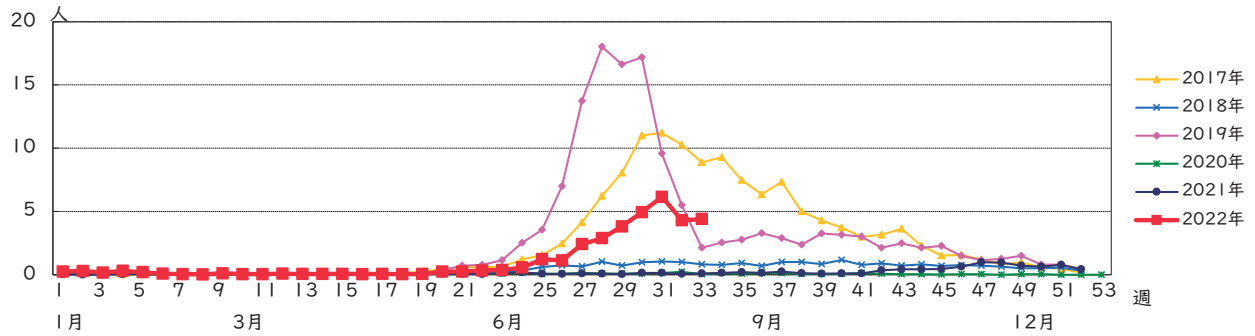


報告週対応表

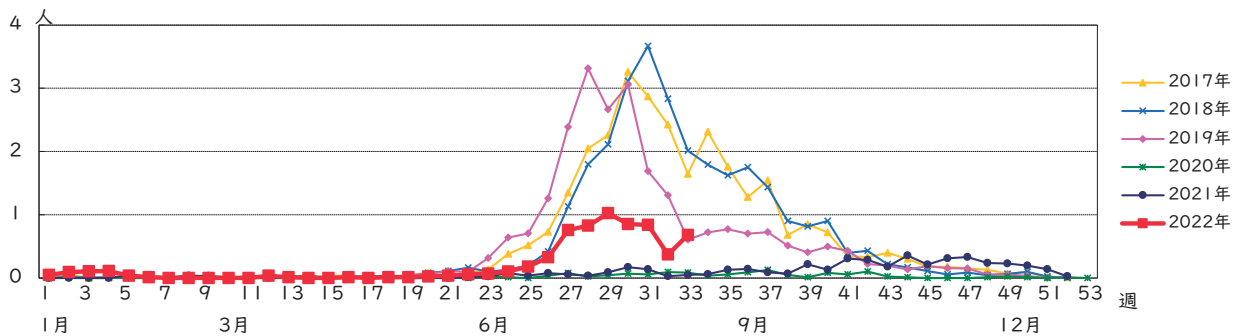
第30週	7月25日～7月31日
第31週	8月1日～8月7日
第32週	8月8日～8月14日
第33週	8月15日～8月21日

◇ 定点把握の対象

1 手足口病：第20週以降増加が続き、第31週は6.15で、流行警報発令基準値5.00を上回りました。第32週は4.29、第33週は4.40ですが、市内での流行は続いています。



2 ヘルパンギーナ：第20週以降増加が続き、第30週は0.85、第31週は0.84、第32週は0.37、第33週は0.68となっています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性：38件	女性：17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性：4件	女性：5件
尖圭コンジローマ	男性：8件	女性：2件	淋菌感染症	男性：20件	女性：5件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.67	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>



# 令和4年9月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症が増加しています。
- 梅毒や性器クラミジア感染症など、性感染症が高い水準で続いています。
- 新型コロナウイルス感染症は第31週の報告数39,708件をピークに減少傾向にありますが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。

### ◇ 全数把握の対象

<9月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	21件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件
パラチフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	8件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	21件
ウイルス性肝炎	2件	播種性クリプトコックス症	1件

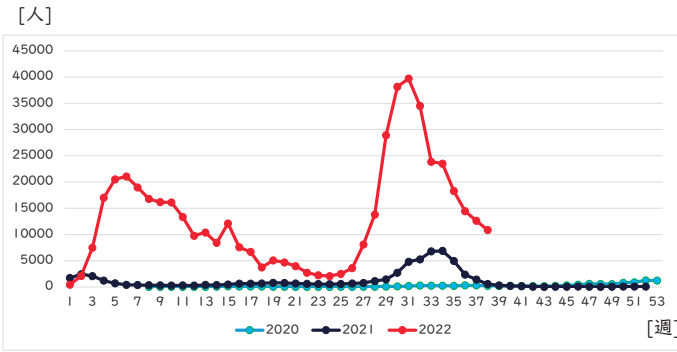
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満~80歳代で、O157が13件、O26が5件、O111が2件、O不明が1件報告されました。10件は経口感染、11件は感染経路等不明でした。
- 2 **パラチフス**:20歳代で、海外での経口感染と推定されています。
- 3 **E型肝炎**:40歳代および50歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 4 **デング熱**:10歳代で、海外での蚊からの感染が推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:40歳代~60歳代で、水系感染と推測される報告が4件、水系感染または塵埃感染と推測される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 6 **アメーバ赤痢**:20歳代および40歳代で、いずれも性的接触による感染と推定されています。
- 7 **ウイルス性肝炎**:B型肝炎(20歳代および50歳代)の報告が2件ありました。いずれも性的接触による感染と推定されています。
- 8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:40歳代~80歳代で、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:50歳代~60歳代で、A群が3件、G群が1件報告されました。2件は創傷感染が推定され、2件は感染経路等不明でした。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代~50歳代で、AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者が1件報告されました。性的接触(同性間3件)による感染と推定されています。
- 11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:60歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。感染経路等は不明です。
- 12 **侵襲性肺炎球菌感染症**:40歳代~90歳代(ワクチン接種歴無1件、接種歴不明2件)の報告が3件ありました。1件は飛沫・飛沫核感染と推定され、2件は感染経路等不明です。
- 13 **梅毒**:10歳代~60歳代で、早期顕症梅毒I期11件、早期顕症梅毒II期5件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者4件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が21件(異性間17件、同性間1件、異性および同性1件、詳細不明2件)でした。
- 14 **播種性クリプトコックス症**:80歳代で、感染経路等不明です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

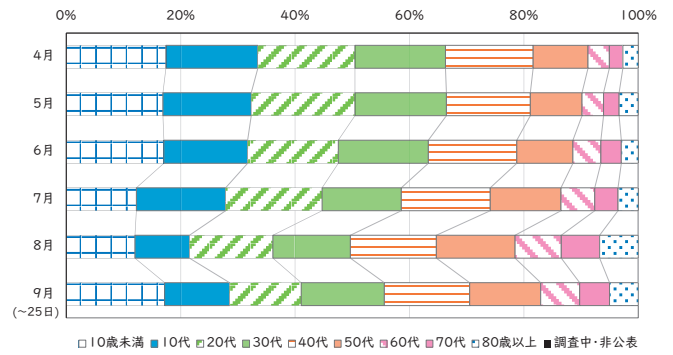
第34週~第38週に横浜市から報道発表がありました症例は79,704件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

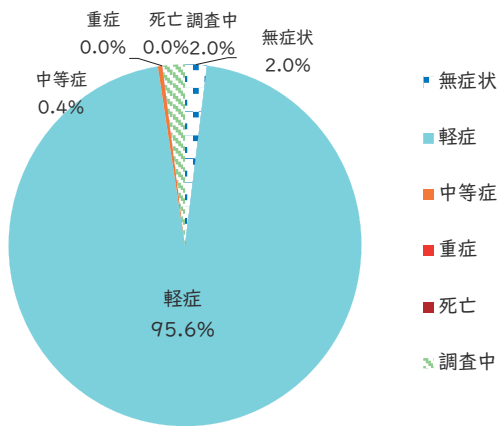
### 1 報告数の推移



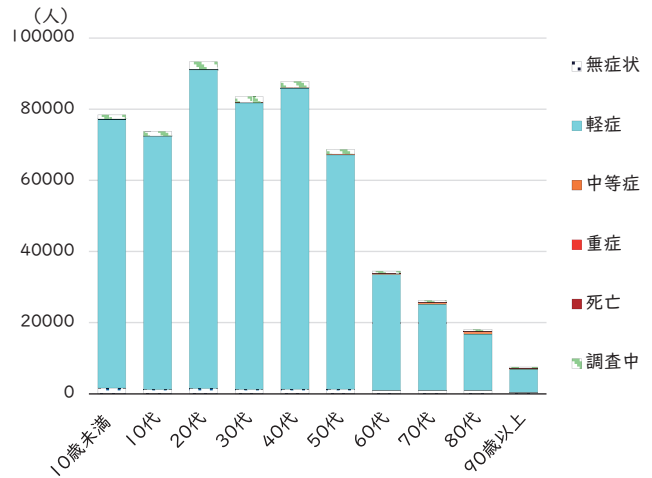
### 2 年齢層別患者割合



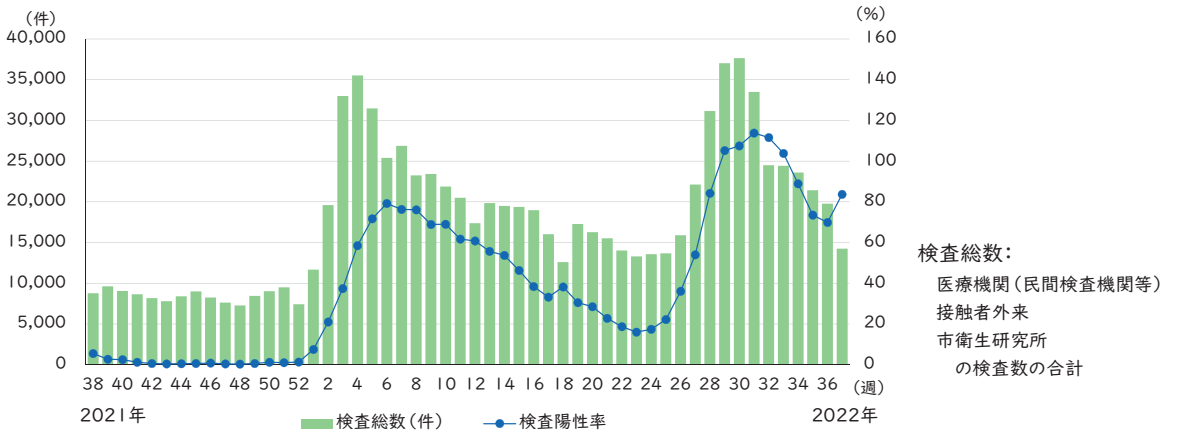
### 3 陽性確定時の症状の割合(2022年第38週まで)



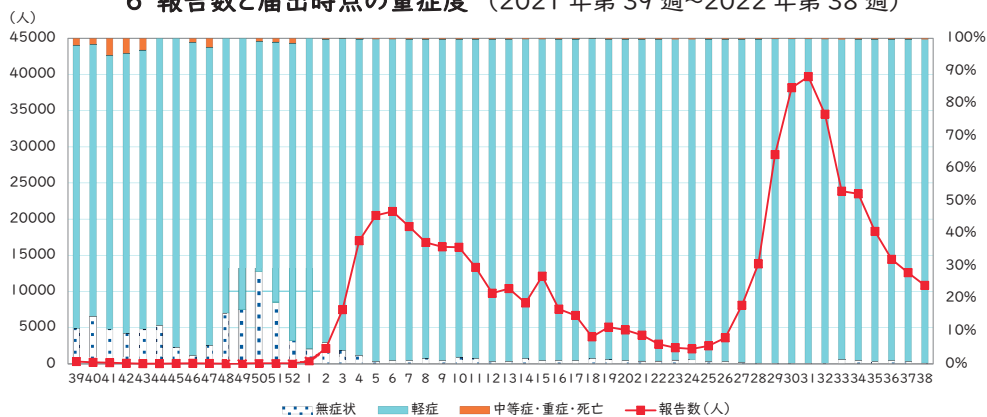
### 4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第38週まで)



### 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第38週~2022年第37週)



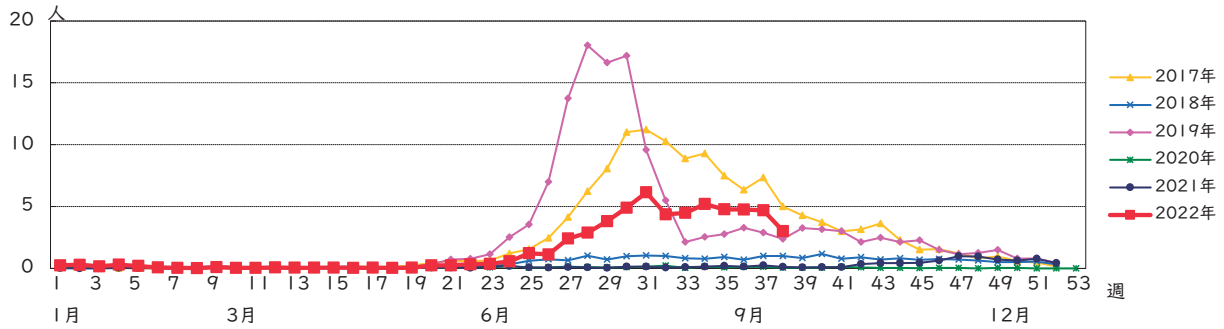
### 6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第39週~2022年第38週)



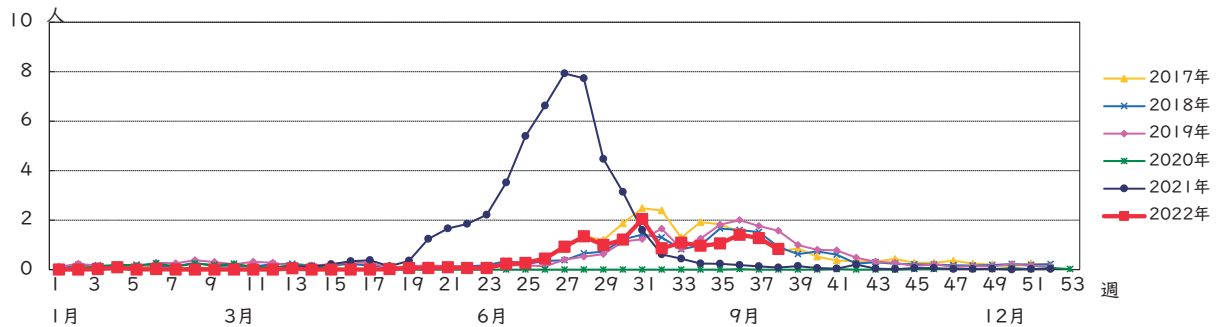
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第34週	8月22日～8月28日
第35週	8月29日～9月4日
第36週	9月5日～9月11日
第37週	9月12日～9月18日
第38週	9月19日～9月25日

1 手足口病：第20週以降増加が続き、第31週は6.14で、流行警報発令基準値5.00を上回りました。第34週5.19、第35週4.76、第36週4.76、第37週4.68、第38週3.01と、市内での流行は続いています。



2 RSウイルス：第24週以降増加が続き、第31週に2.03でピークを迎えましたが、第34週0.95、第35週1.05、第36週1.40、第37週1.27、第38週0.82と高めで推移しています。



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性：42件	女性：17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性：7件	女性：3件
尖圭コンジローマ	男性：12件	女性：6件	淋菌感染症	男性：19件	女性：5件

4 基幹定点週報

	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

# 令和4年10月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第31週をピークに減少傾向でしたが、第40週より横ばいが続いており、今後の動向に注意が必要です。10代を始めとする若い世代を中心に、幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒や性器クラミジア感染症など、性感染症が高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

<10月期に報告された全数把握疾患>

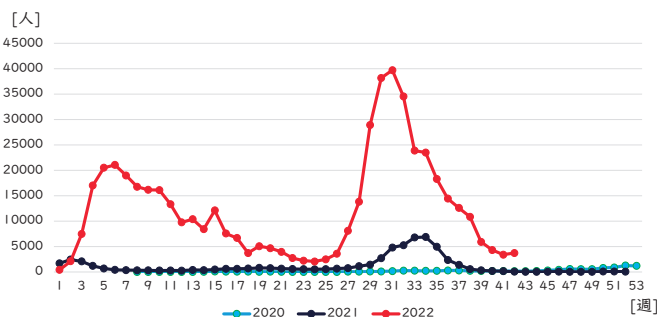
腸管出血性大腸菌感染症	13件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
日本紅斑熱	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	2件
ウイルス性肝炎	2件	梅毒	15件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	百日咳	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代~60歳代で、O157が8件、O26、O103、O128、O146が1件ずつ、O不明が1件報告されました。経口感染と推定される報告が2件、接触感染と推定される報告が1件、経口感染または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が9件です。
- E型肝炎**: 50歳代で、感染経路等不明です。
- 日本紅斑熱**: 70歳代で、国内での動物・蚊・昆虫からの感染と推定されています。
- レジオネラ症**: 50歳代~70歳代で、水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- アメーバ赤痢**: 60歳代で、感染経路等不明です。
- ウイルス性肝炎**: B型肝炎(50歳代および60歳代)の報告が2件ありました。性的接触による感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 50歳代~90歳代で、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- クロイツフェルト・ヤコブ病**: 70歳代で、孤発性です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 50歳代で、血清群はB群、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 50歳代で、無症状病原体保有者、性的接触(同性間)による感染と推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満~70歳代(ワクチン接種歴4回1件、接種歴不明4件)の報告が5件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 水痘(入院例に限る)**: 20歳代および90歳代(ワクチン接種歴無1件、接種歴不明1件)の報告が2件ありました。1件は飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 梅毒**: 10歳代~70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。いずれも性的接触(異性間13件、同性間1件、詳細不明1件)による感染と推定されています。
- 百日咳**: 40歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

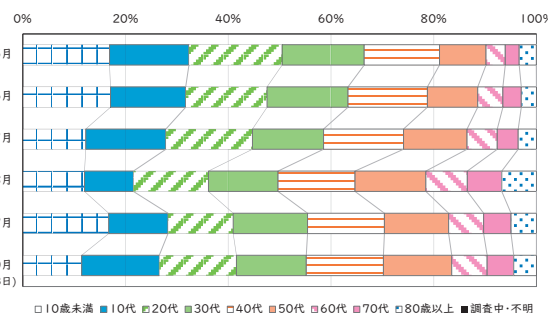
第39週~第42週に横浜市から報道発表がありました症例は17,391件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月27日より集計方法を変更しています。

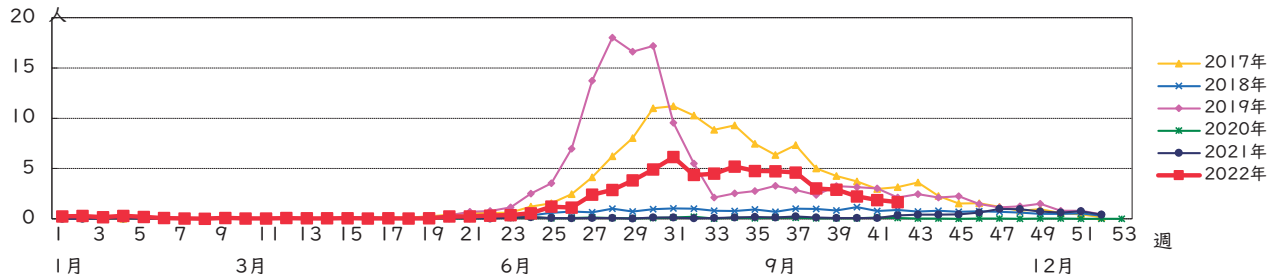


2 年齢層別患者割合

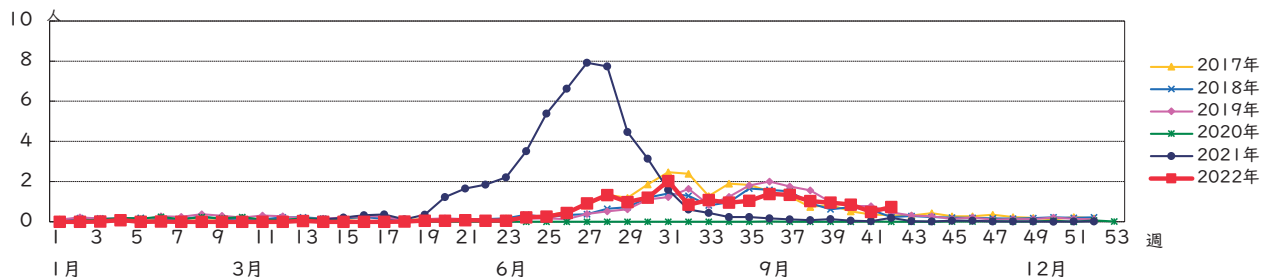
報告週対応表	
第39週	9月26日～10月2日
第40週	10月3日～10月9日
第41週	10月10日～10月16日
第42週	10月17日～10月23日

◇ 定点把握の対象

1 手足口病：第20週以降増加が続き、第31週は6.14で、流行警報発令基準値5.00を上回りました。第39週2.90、第40週2.23、第41週1.86、第42週1.66と減少し、終息基準値を下回りました。



2 RSウイルス：第24週以降増加が続き、第31週に2.03でピークを迎えましたが、第39週0.95、第40週0.86、第41週0.50、第42週0.74と高めで推移しています。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:6件	淋菌感染症	男性:22件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.33	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

# 令和4年11月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第41週以降、増加に転じています。10代を始めとする若い世代を中心に、幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒などの性感染症が高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### <11月期に報告された全数把握疾患>

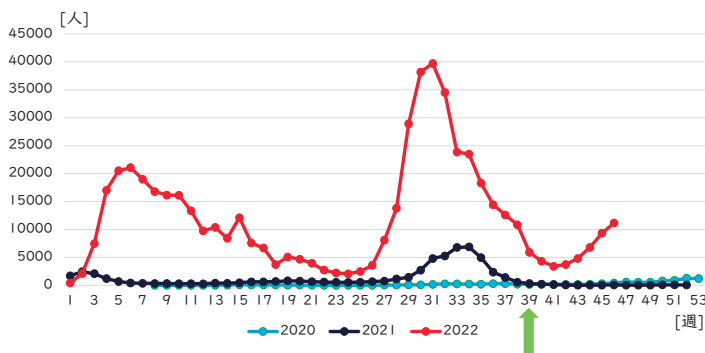
腸管出血性大腸菌感染症	5件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
レジオネラ症	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	梅毒	12件

- 腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳未満~50歳代で、血清群O157が4件、O26が1件報告されました。経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- E型肝炎**: 30歳代~50歳代で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- レジオネラ症**: 60歳代~90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢**: 50歳代で、感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 10歳未満~80歳代で、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 30歳代~90歳代で、血清群はA群、G群、F群が各1件ずつ報告されました。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 40歳代で、無症状病原体保有者、性的接触(同性間)による感染と推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満~90歳代(ワクチン接種歴2回1件、接種歴無1件、接種歴不明3件)の報告が5件ありました。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**: 70歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 梅毒**: 20歳代~60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が11件(異性間10件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

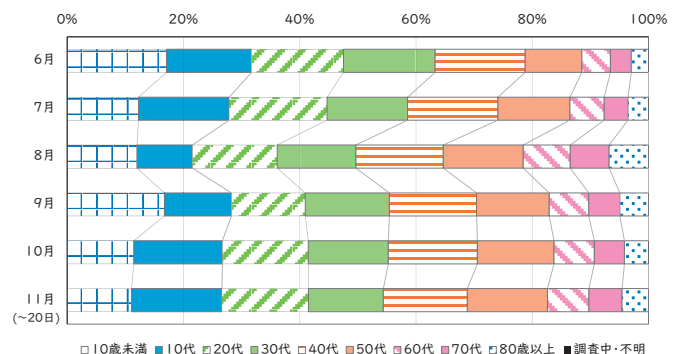
第43週~第46週に横浜市から報道発表がありました症例は32,108件でした。

### ◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています。(緑矢印)

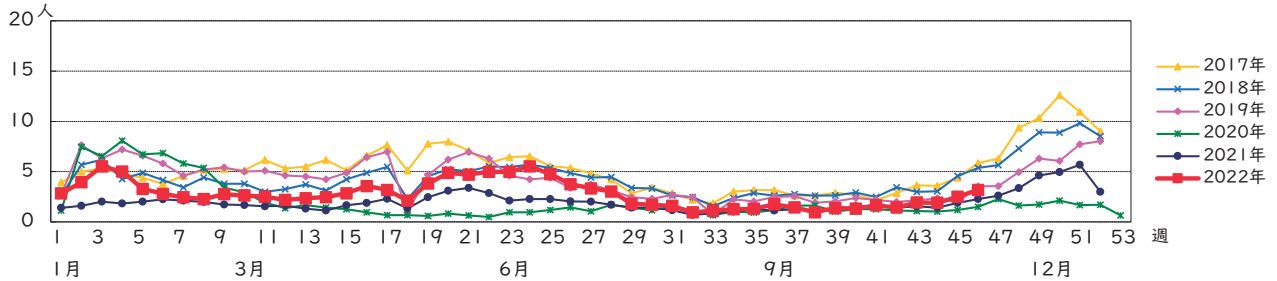


2 年齢層別患者割合

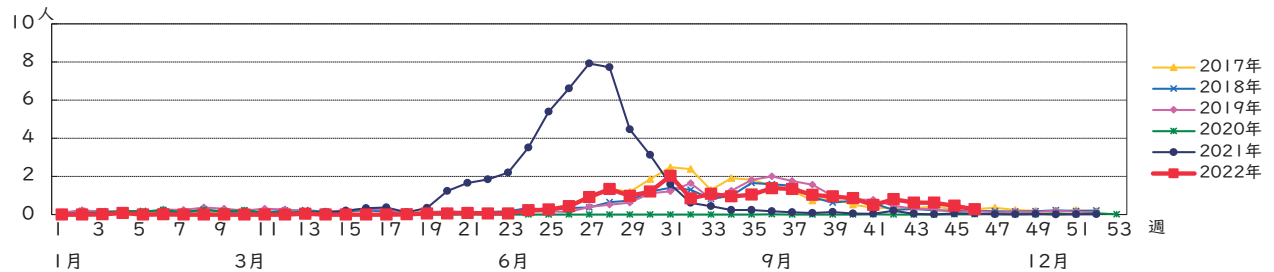
報告週対応表	
第43週	10月24日～10月30日
第44週	10月31日～11月6日
第45週	11月7日～11月13日
第46週	11月14日～11月20日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎：第39週以降増加に転じ、第43週1.93、第44週1.90、第45週2.49、第46週3.18と増加しています。



2 RSウイルス：第31週に2.03でピークを迎えましたが、第43週0.63、第44週0.62、第45週0.46、第46週0.28と減少しています。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性：28件	女性：21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性：5件	女性：8件
尖圭コンジローマ	男性：6件	女性：2件	淋菌感染症	男性：23件	女性：5件

4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.33
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

# 令和4年12月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第41週以降増加に転じています。幅広い年齢層での感染がみられます。
- インフルエンザや感染性胃腸炎など増加の兆しがみられ、今後の動向に注意が必要です。
- 梅毒などの性感染症が高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

<12月期に報告された全数把握疾患>

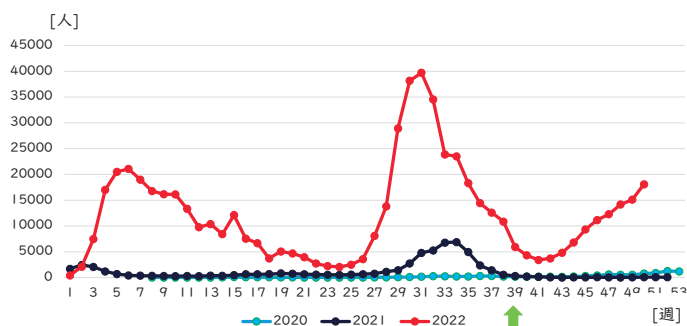
腸管出血性大腸菌感染症	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
E型肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
A型肝炎	1件	梅毒	16件
レジオネラ症	4件	破傷風	1件
アメーバ赤痢	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	百日咳	2件
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代~30歳代で、血清群O157が2件、O26が1件、Og146が1件、不明が2件で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 2 **E型肝炎**: 30歳代で、経口感染と推定されています。
- 3 **A型肝炎**: 80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 4 **レジオネラ症**: 50歳代~90歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 5 **アメーバ赤痢**: 70歳代で、性的接触(同性間)と推定されています。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 60歳代~80歳代で、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 7 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 50歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満~90歳代(ワクチン接種歴4回1件、3回1件、不明2件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 9 **水痘(入院例に限る)**: 80歳代(ワクチン接種歴不明)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 **梅毒**: 10歳代~70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間15件、詳細不明1件)ありました。
- 11 **破傷風**: 70歳代(ワクチン接種歴不明)で、創傷感染と推定されています。
- 12 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**: 90歳代で、感染経路等不明です。
- 13 **百日咳**: 10歳未満(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

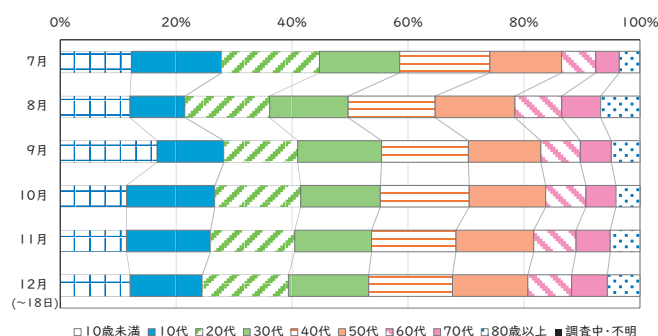
第47週~第50週に横浜市から報道発表がありました症例は59,652件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています。(緑矢印)



2 年齢層別患者割合

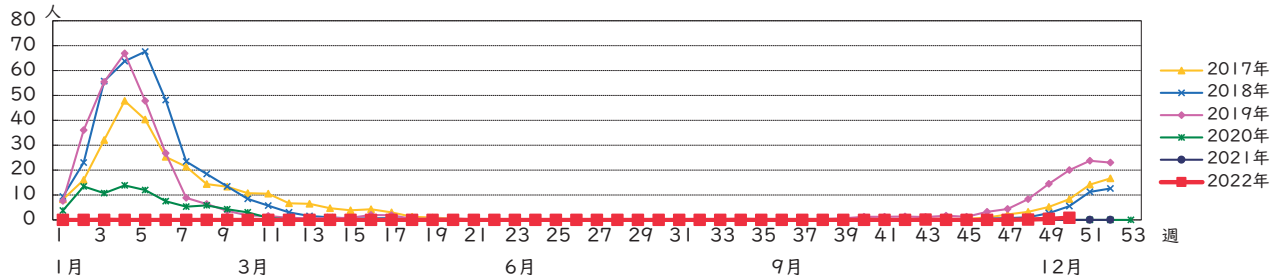


報告週対応表	
第47週	11月21日～11月27日
第48週	11月28日～12月4日
第49週	12月5日～12月11日
第50週	12月12日～12月18日

◇ 定点把握の対象

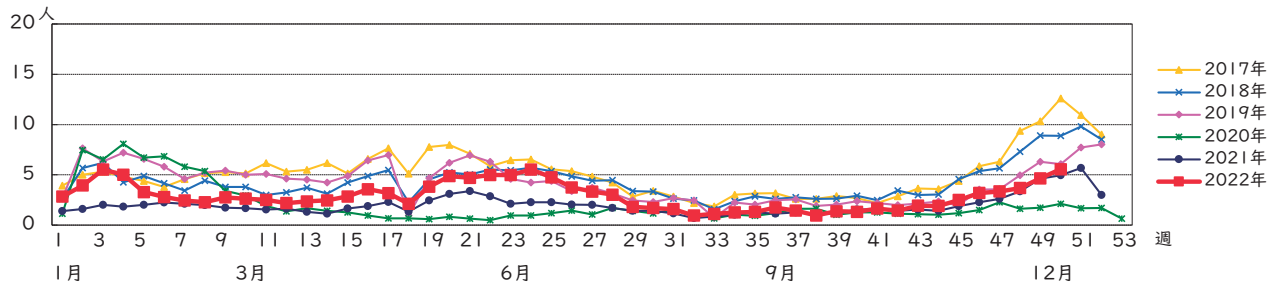
1 インフルエンザ:

第46週以降はわずかに増加しており、第47週0.04、第48週0.15、第49週0.42、第50週0.91です。



2 感染性胃腸炎:

第45週以降増加に転じ、第47週3.35、第48週3.69、第49週4.65、第50週5.55です。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性:2件	淋菌感染症	男性:16件	女性:3件

4 基幹定点週報

	第47週	第48週	第49週	第50週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.33	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

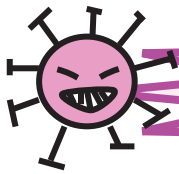
5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>



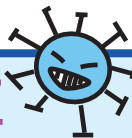
# 感染症に気をつけよう!

1月21日発行

横浜市感染症情報センター

2022年【1月号】

今、気をつけたい感染症



新型コロナウイルス感染症

知らないうちに、拡めちゃうから。

**STOP!**  
**感染拡大**  
— COVID-19 —



マスク着用

オミクロン株にも、  
基本的な感染対策。



密閉回避



手洗い



換気



密接回避

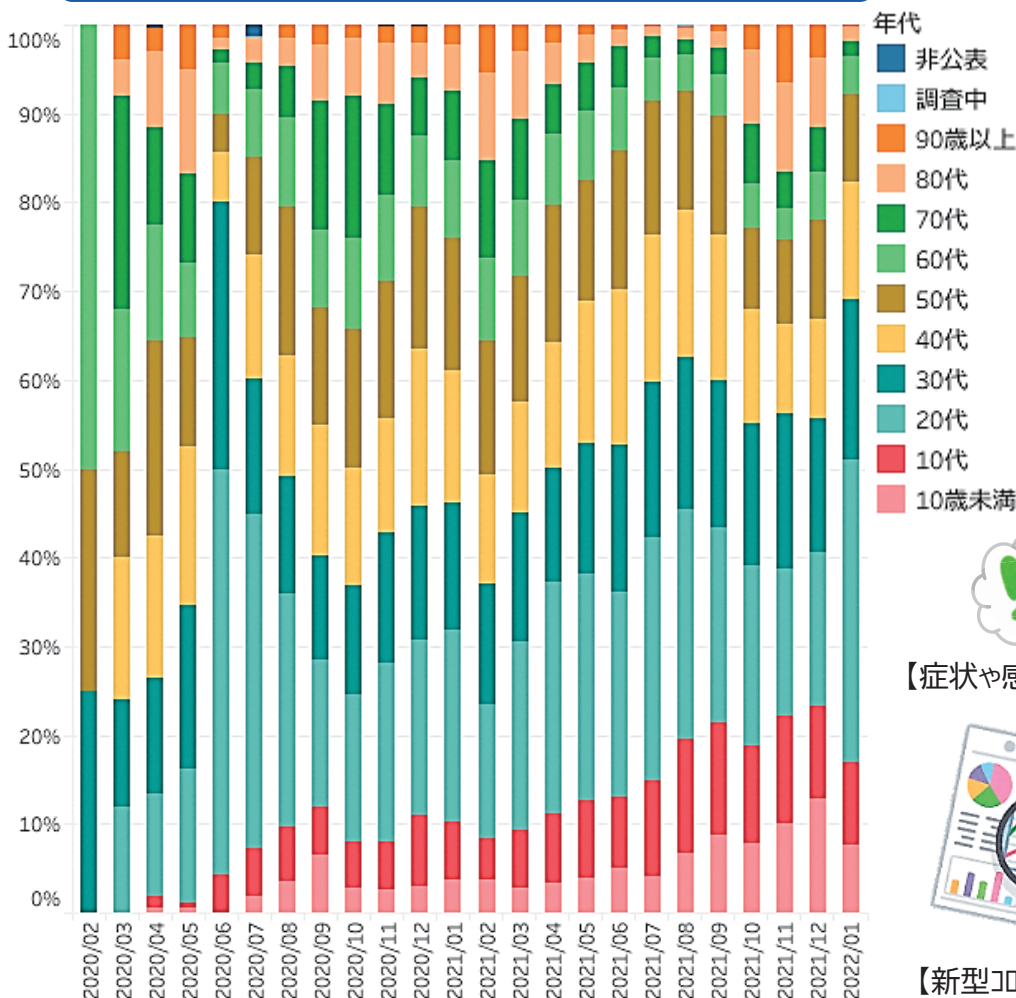


密集回避

症状が軽いと感染に気づきにくく、知らないうちに他の人にうつす場合があります。

体がだるい、発熱、のどに違和感があるなど体調が悪い時は外出を控えましょう。

市内陽性患者の年代別割合の推移(月別) 1月12日時点



## 参考リンク

厚生労働省  
【Q&Aよくある質問】

横浜市保健所



【子ども向け(ワケ)接種】

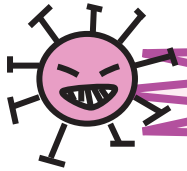


【症状や感染が不安な方(無料検査)】



【新型コロナウイルス感染症関連ウェブサイト】





# 感染症に気をつけよう!

2022年【2月号】



## 横浜市内の感染症 流行状況

2月10日  
発行

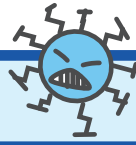
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	増加	オミクロン株による第6波が流行中で、子どもと高齢者の割合が増えています。【'22.1号】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。【チラシ 梅毒知ってますか?無料・匿名検査】

国立感染症研究所\*

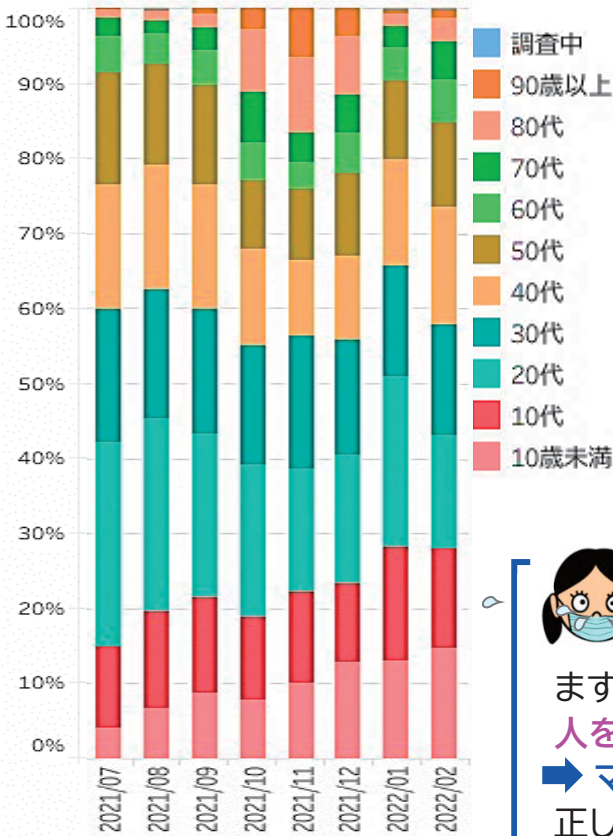
厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症



## 新型コロナウイルス感染症



### 陽性患者の年代別割合の推移 (月別)

2021年7月以降 2022年2月7日時点

- ➡ ウィルスに感染した場合、体内でウィルスが増殖すると、**症状が無くても唾液や鼻汁などにウィルスが含まれるようになっていきます。**
- ➡ そのウィルスを含んだ飛沫(しぶき)は、**咳やくしゃみ以外に、会話や咳払い、スポーツで体を動かした時の激しい呼吸でも、口や鼻から出る可能性があります。**



- ➡ **マスクを着けていても、鼻が出ていたら飛沫が飛び散ります。無症状でも、知らないうちに他の人を感染させてしまうかもしれません。**
- ➡ **マスクはすき間なく顔にフィットさせ、正しく使いましょう。**



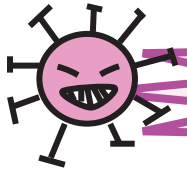
### 陽性患者数の推移 (公表日別)

2021年7月1日以降  
2022年2月7日時点

参考リンク: 横浜市保健所

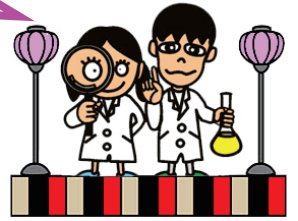
【「はたらく細胞」と横浜市がコラボレーション!】

【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】



# 感染症に気をつけよう!

2022年【3月号】



## 横浜市内の感染症 流行状況

3月8日  
発行

感染症*	流行状況	説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行 横ばい	陽性患者の年代別割合では、1月に比べて2月は、特に10歳未満が増えました。【'22.2号】
梅毒**	発生 横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。【チラシ 梅毒知ってますか?無料・匿名検査】

国立感染症研究所\*

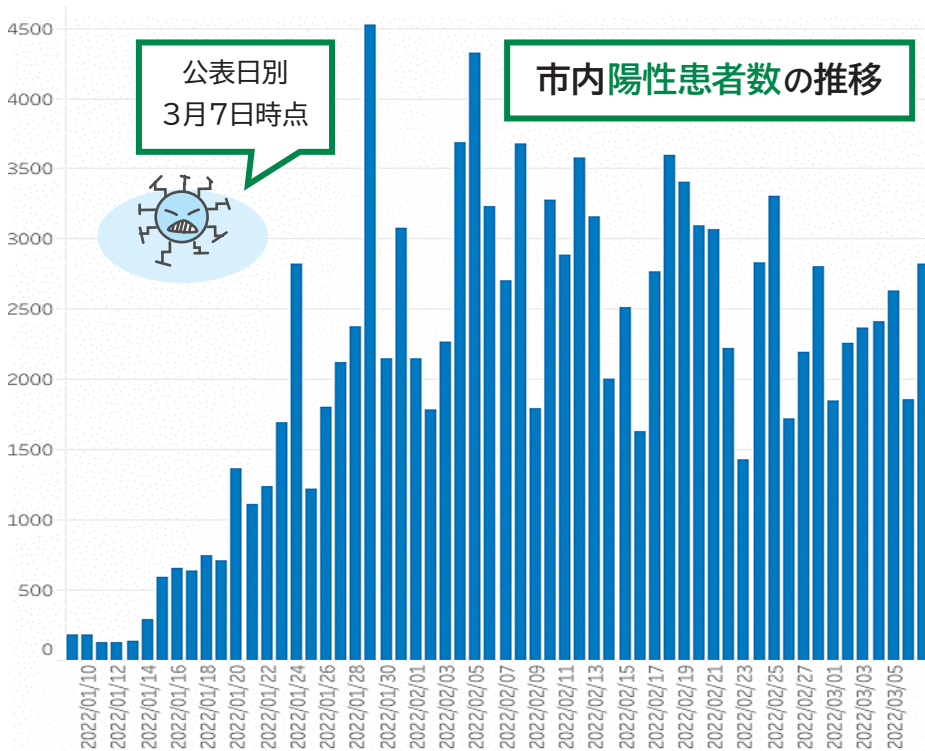
厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症



## 新型コロナウイルス感染症



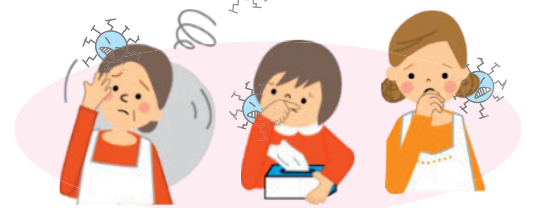
洗っていない手で顔を触らないでください!

ウイルスが付着した手で目・鼻・口に触ると、粘膜からウイルスが体内に入り感染(接触感染)してしまう可能性があります。



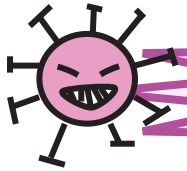
人は無意識に顔を触っています!

その頻度は1時間に平均23回、このうち目・鼻・口などの粘膜は約44%を占めているとの報告があります。\*\*



参考リンク: 横浜市保健所

【「はたらく細胞」と横浜市がコラボレーション!】【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】



# 感染症に気をつけよう!

2022年【4月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況

4月5日  
発行



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	やや減少	新規の感染者数はゆるやかに減少傾向ですが、感染の再拡大が心配されています。【'22.3号】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。【チラシ 梅毒知ってますか?無料・匿名検査】

国立感染症研究所\*

厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症

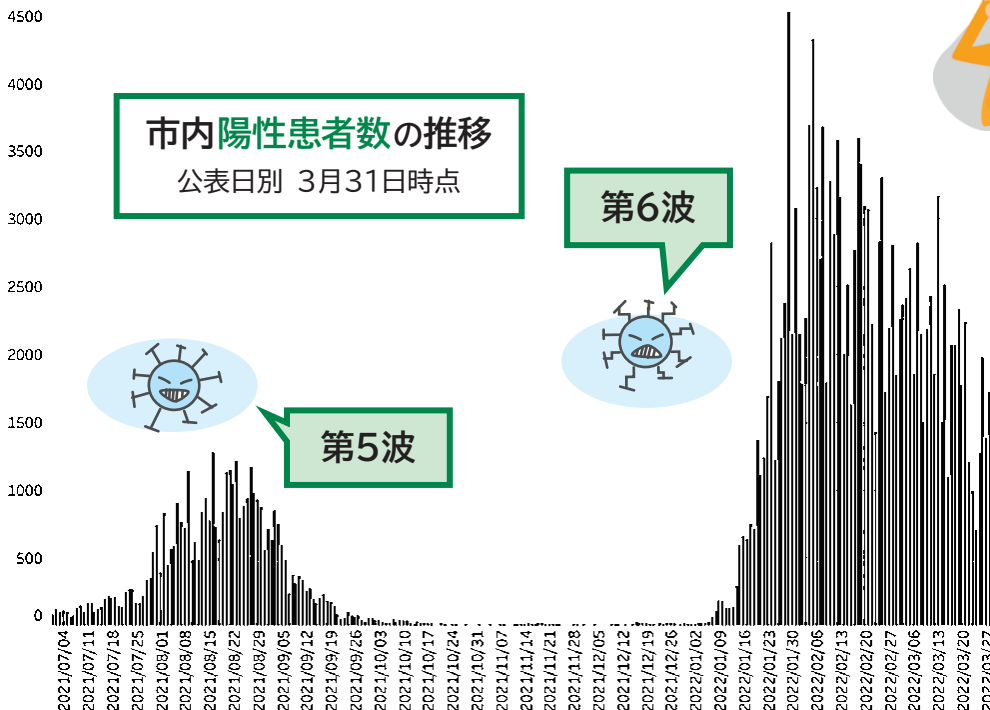


## 新型コロナウイルス感染症



体調不良時の出勤・登校・移動は控えましょう!

- 少しでも体調が悪い時は、無理をしないで外出は止めてください。
- 無理をして出かけると、クラスター(患者集団)の発生につながる恐れがあります。
- 1人ひとりの行動が、大切な人とあなたの日常を守ることに繋がります。



体が  
だるい



熱が  
ある

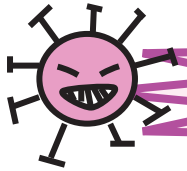


のどに  
違和感



無理  
しないで!

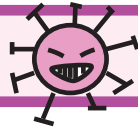
参考リンク: 横浜市保健所 【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】 【小児接種(5~11歳)について】



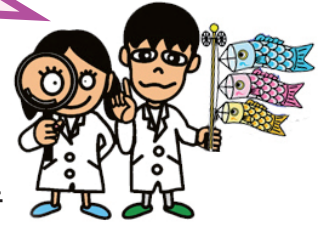
# 感染症に気をつけよう!

2022年【5月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



5月6日  
発行



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	やや減少	新規の感染者数はゆるやかに減少傾向ですが、感染の再拡大が心配されています。【'22.4号】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。【チラシ 梅毒知ってますか?無料・匿名検査】

国立感染症研究所\*

厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

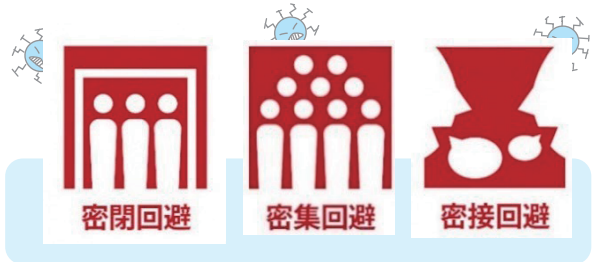
## 今、気をつけたい感染症



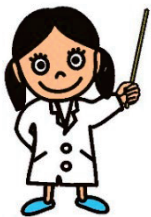
## 新型コロナウイルス感染症



密閉、密集、密接している場面を避けて、できるだけ「**ゼロ密**」を\*\*目指しましょう!



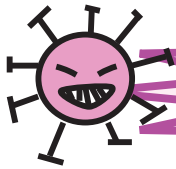
密閉空間にしないよう、こまめに換気しましょう!



- ✓ 「部屋が広ければ大丈夫」「狭い部屋は危険」というものではありません。
- ✓ カギは「**換気**の程度」です。
- ✓ 風の流れることができるよう、**2方向の窓を1回に数分間程度、全開**にしましょう。
- ✓ 換気回数は**1時間に2回以上**確保しましょう。

- ✓ 窓がひとつしかない場合でも、**入口のドアを開ければ**、窓とドアの間に空気が流れます。
- ✓ **扇風機や換気扇を併用したり工夫すれば**、換気の効果はさらに上がります。

参考リンク: 横浜市保健所 【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】 【小児接種(5~11歳)について】



# 感染症に気をつけよう!

2022年【6月号】



## 横浜市内の感染症 流行状況

5月27日  
発行

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	やや減少	ゆるやかに減少傾向ですが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。【'22.5号】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。20代女性の例も報告されています。【チラシ】

国立感染症研究所\*

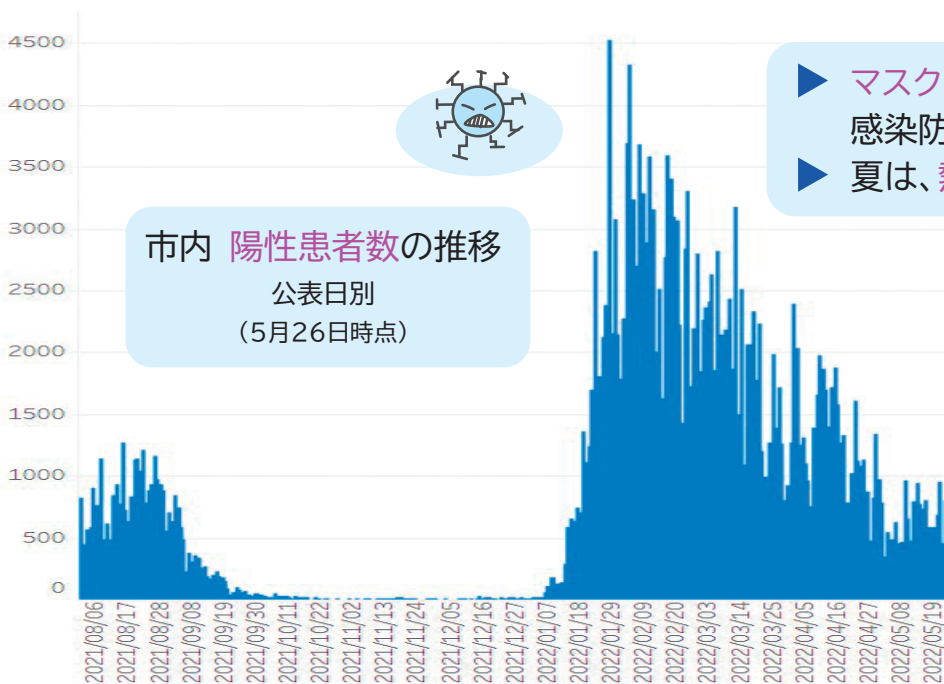
厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

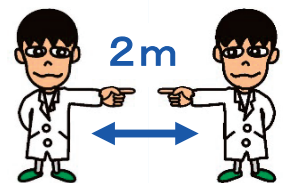
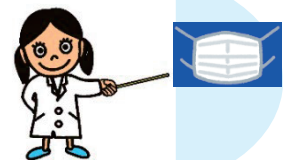
## 今、気をつけたい感染症



## 新型コロナウイルス感染症



- ▶ マスクを着けることは、基本的な感染防止対策として**重要**です。
- ▶ 夏は、**熱中症**にも**注意**しましょう。



▶ 屋外では、人との距離(2m以上を目安)が確保できる場合や、距離が確保できなくても、ほとんど会話しない場合は、

▶ 屋内では、人との距離が確保できて、かつ、ほとんど会話しない場合は、

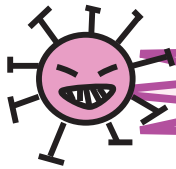
マスクを着ける必要はありません。\*\*



参考リンク：横浜市保健所

【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】

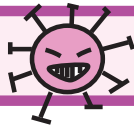
【新型コロナウイルスワクチン接種について】



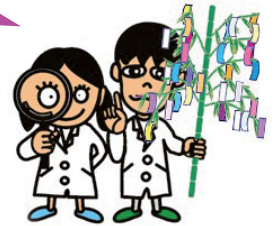
# 感染症に気をつけよう!

2022年【7月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



7月4日  
発行



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性 大腸菌感染症**	発生	増加	10歳未満～70歳代で報告されています。その半数以上がO157です。【'19.9号】【ちらし】
感染性胃腸炎**	発生	横ばい	今年は昨年に比べ、多い状況が続いています。集団発生も報告されています。【'16.12号】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。妊婦の報告もみられます。【ちらし】

国立感染症研究所\*

厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



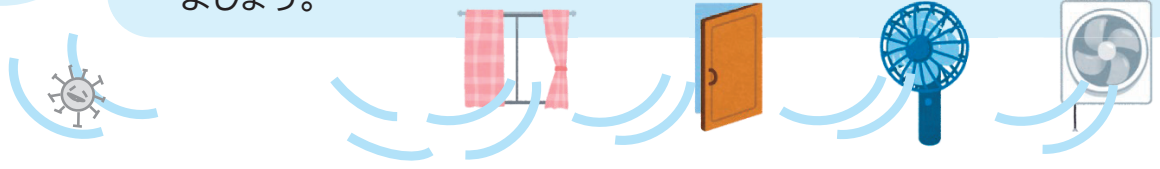
- ▶ 主な感染経路のひとつに、**エアロゾル**感染があります。
- ▶ 感染した人の口や鼻から、咳・くしゃみ・会話などの時に排出される、飛沫(ひまつ)より更に小さな粒子(**エアロゾル**)を吸い込むことで感染するものです。



- ▶ この**エアロゾル**はウイルスを含んでいて、1メートルよりも離れた空気中にとどまる可能性があります。\*\*

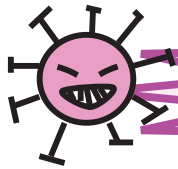


- ▶ そのため、換気が不十分だったり、混雑している室内に長時間滞在すると、感染が広がるリスクがあるのです。
- ▶ 密閉空間にならないよう、適切に換気して、**エアロゾル**感染を防ぎましょう。



参考リンク：横浜市保健所 【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】 【新型コロナウイルスワクチン接種について】





# 感染症に気をつけよう!

2022年【8月号】



## 横浜市内の感染症 流行状況

8月2日  
発行

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	増加	7月に入り急激に増加していました。幅広い年齢層での感染がみられます。【'22.7号】
手足口病**	発生	増加	5月中旬から増加しています。市内の複数の地域で、警報レベルに達しています。【'19.7号】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	横ばい	6月以降、多く報告されています。その半数は感染経路等が不明です。【'19.9号】【ちらし】
梅毒**	発生	横ばい	梅毒などの性感染症は、報告数の比較的多い状況が続いています。【ちらし】

国立感染症研究所\*

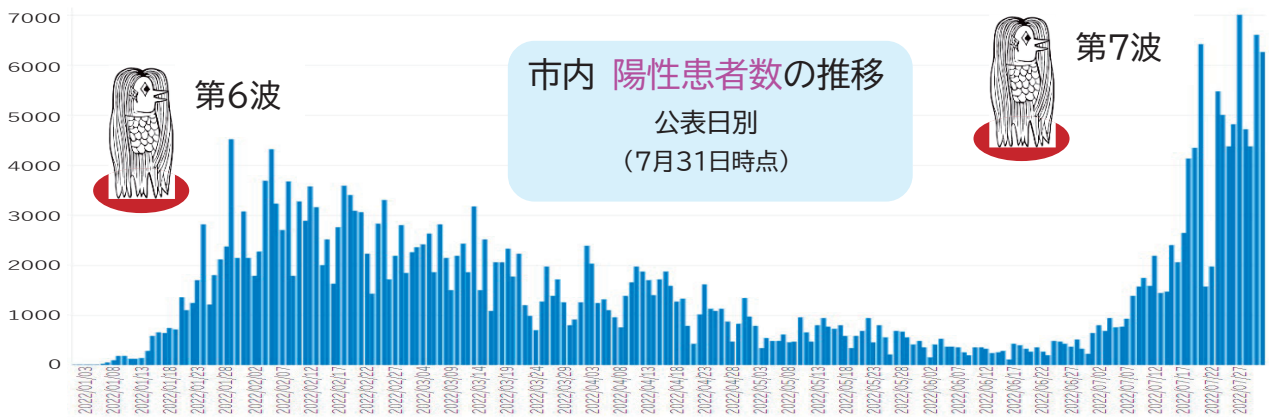
厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症



## 新型コロナウイルス感染症



知らないうちに、拡めちゃうから。



マスク着用



手洗い



密接回避



密集回避



密閉回避



換気

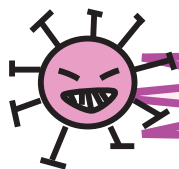
- ▶ 高齢者や基礎疾患のある人が感染すれば、重症化リスクも高まります。
- ▶ ひとりひとりの行動が、大切な人と私達の日常を守ることにつながります。
- ▶ 引き続き、基本的な感染対策を徹底しましょう。\*



参考リンク：横浜市保健所

【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】

【新型コロナウイルスワクチン接種について】



# 感染症に気をつけよう!

2022年【9月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況

8月29日  
発行



感染症*	流行状況	説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行  やや減少	8月以降は、ゆるやかに減少傾向ですが、幅広い年齢層での感染がみられます。【'22.8号】
手足口病**	警報  横ばい	8月上旬に流行警報が出ました。警報レベルの流行が継続中です。【臨時情報】【'19.7号】
梅毒**	発生  横ばい	梅毒などの性感染症は、報告数の比較的多い状況が続いています。【ちらし】

国立感染症研究所\*

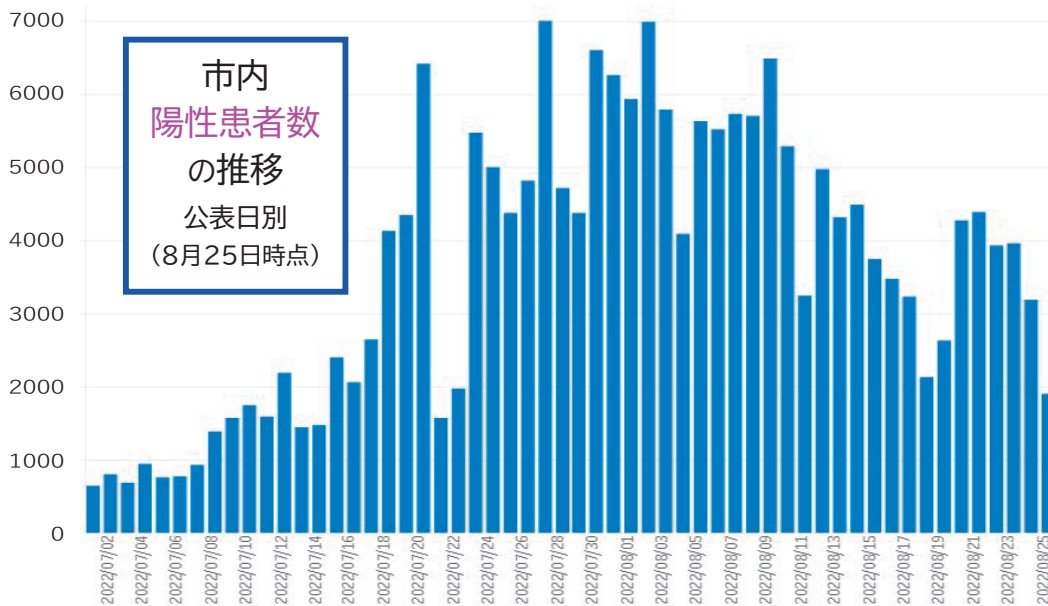
厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症



## 新型コロナウイルス感染症

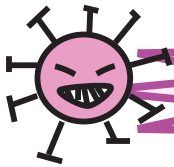


- 手や指などのウイルス対策では、洗うことが最も重要です。
- 流水で手洗いができない時は、アルコールを含んだ手指消毒薬を使いましょう。(アルコールは、ウイルスの膜を壊して無毒化します。)
- 手のひらに消毒薬を約3ml(ポンプ1回分)取り、初めに両手の指先に消毒薬をすりこみます。指先から消毒するのがポイントです。\*

参考リンク：横浜市保健所

【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】

【新型コロナウイルスワクチン接種について】

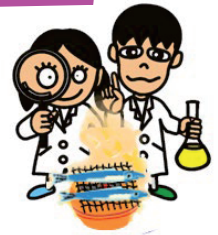








# 感染症に気をつけよう!

2022年【10月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況

10月3日  
発行



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
腸管出血性 大腸菌感染症**	 発生	 増加	6月以降、報告が多いです。10歳未満の例も報告されています。【'19.9号】【ちらし】
梅毒**	 発生	 横ばい	梅毒などの性感染症は、報告数の比較的多い状況が続いています。【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症*	 大流行	 やや減少	減少傾向ですが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。【'22.9号】

国立感染症研究所\*

厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症 冬の感染症

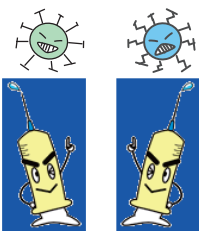
- 気温が低く乾燥している冬は、風邪、インフルエンザやノロウイルスなど、**感染症が流行しやすい**季節です。



- 感染症の種類は違っても、基本的な予防対策は同じです。
- 感染(飛沫感染・接触感染)の経路を断つために、咳エチケット\*\*やこまめな手洗い\*\*をしっかりと行いましょう。
- 十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけて、免疫力を高めておくことも大事です。



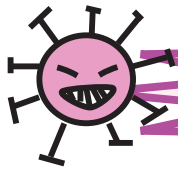
- 特に今シーズンは、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の**同時流行も心配**されています。



- インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンは、同時に接種することも可能\*\*です。ワクチン接種について、かかりつけ医に相談しましょう。
- 横浜市では、令和4年10月1日～12月31日に高齢者インフルエンザ予防接種を実施します。



参考リンク：横浜市保健所 【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】 【新型コロナウイルスワクチン接種について】







# 感染症に気をつけよう!

2022年【11月号】



## 横浜市内の感染症 流行状況

10月31日  
発行

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	 大流行	 横ばい	10代を始めとする若い世代を中心に、幅広い年齢層での感染がみられます。【'22.10号】
梅毒**	 発生	 横ばい	梅毒などの性感染症は、報告数が比較的多い状況が継続中です。【ちらし】【無料・匿名検査】

国立感染症研究所\*

厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症 同時流行!!



この冬は  新型コロナウイルス感染症の感染拡大が今年の夏を上回り、  
加えて  インフルエンザ\*\*も 同時に流行する可能性\*\*があります!

基本的な予防対策は同じです。  
感染(飛沫感染・接触感染)の経路を断つために、引き続き  
咳エチケット\*\*や  
こまめな手洗い\*\*を  
しっかり行いましょう!

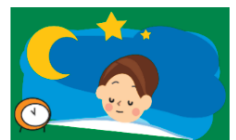
免疫力が弱っていると感染しやすくなります。  
十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけ、  
**免疫力を高めて**  
おきましょう!



新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンは、同時に接種することも可能\*\*です。

ワクチン接種について、  
かかりつけ医に相談しましょう!

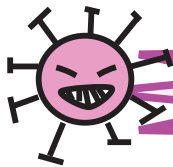
横浜市では、令和4年12月31日まで  
高齢者インフルエンザ予防接種を実施しています。



参考リンク: 横浜市保健所

【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】

【新型コロナウイルスワクチン接種について】

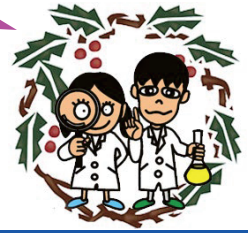


# 感染症に気をつけよう!

2022年【12月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況

12月8日  
発行



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	増加	10月中旬以降、増加に転じました。幅広い年齢層で感染が報告されています。【'22.11号】
梅毒**	発生	横ばい	梅毒などの性感染症は、報告数が比較的多い状況が継続中です。【ちらし】【無料・匿名検査】

国立感染症研究所\*

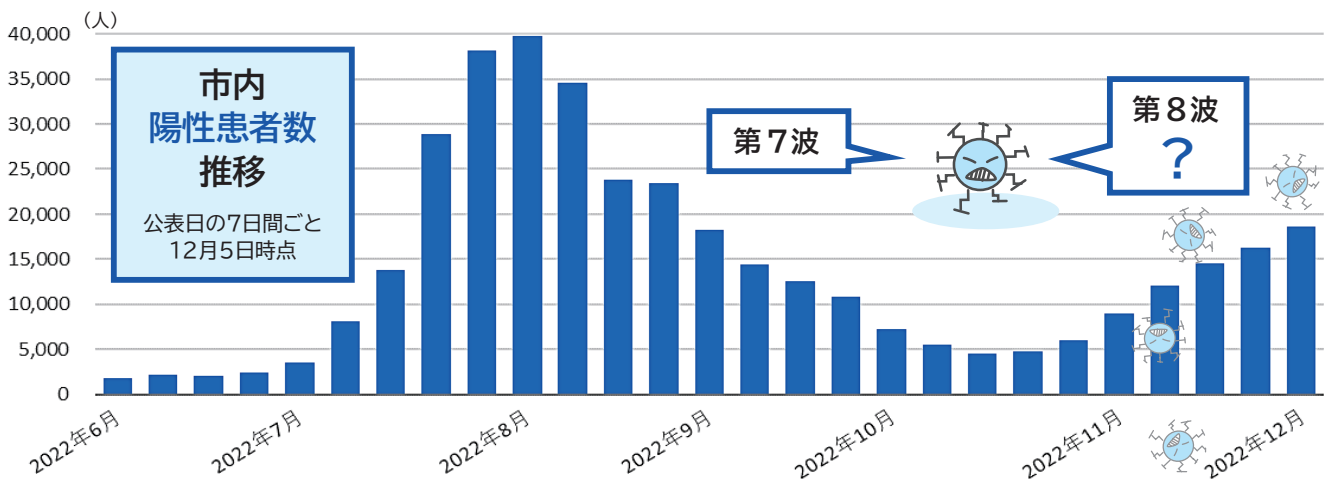
厚生労働省\*\*

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

## 今、気をつけたい感染症



## 新型コロナウイルス感染症



体調不良時の出勤 登校 移動 は控えましょう!

無理をして出かけると、クラスター(患者集団)の発生につながる恐れがあります。高齢者や基礎疾患のある人が感染すれば、重症化リスクも高まります。

1人ひとりの行動が大切な人とあなたの日常を守ることに繋がります!\*\*

参考リンク: 横浜市保健所

【新型コロナウイルス感染症に関する情報について】

【新型コロナウイルスワクチン接種について】



横浜市感染症発生動向調査事業概要  
2022年(令和4年)

横浜市医療局 衛生研究所 感染症・疫学情報課  
2023年12月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号  
Tel 045(370)9237  
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可